（社）日本自動車車体工業会・会報（季刊発行）2009年9月15日発行・第46号3巻

車体NEWS

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

AUTUMN 2009 秋

CONTENTS

巻頭言 …… 2
特　集　環境対応事例発表会を開催 …… 3
NEWS FLASH
本部だより …… 7
部会だより …… 8
支部だより …… 10
官公庁だより …… 11
我が社の元気人 …… 16
Net Work　vol.57　㈱ヤシカ車体 …… 17
VOICE …… 19
SPIN UP　第5回 …… 21
そこが知りたい　第9回 …… 23
Coffee Break …… 25
DATA BOX　車体生産台数　2009年4月～6月 …… 27
編集後記 …… 32

URL:www.jabia.or.jp/　E-mail:info@jabia.or.jp

巻頭言

「創業の志」に返る

副会長　安田善次
（関東自動車工業㈱・代表取締役会長）

創業者 佐久間一郎の熱意

百年に一度と言われる世界同時不況が始まって以来、弊社も含め、車体工業会の各社もかつて経験したことのない経営環境に晒されていると思います。こうした環境の中、よく「原点回帰」という言葉を耳にしますが、そんな時、私は、創業の志や熱意について思いを致すようにしています。

弊社の創業者、佐久間一郎は、中島飛行機の技術者であり、終戦後は、地元横須賀の再生を期すため、新しい事業を興すことが世のため・人のためになるとの使命感、そして以前欧米で自動車工場を視察した経験を活かし、自動車製造に挑戦しました。これは、まさにベンチャー精神そのものであり、進取の気性や気概を感じるところです。

佐久間の志は、当時の最大の課題であった工場用地の取得においても存分に発揮されました。横須賀を直轄する米軍基地司令官デッカー海軍大佐に会社設立の趣旨を率直に熱意を込めて説明し、その後、見事に用地取得を実現したのでした。しかし、資材不足により、その後の事業は窮状が続いておりました。そんな時、デッカー司令官の協力もあり、米軍払下げトラック・バスの改装を受注することが出来ました。航空機の機体製造に従事し、板金の経験を持つ従業員にとって、改装はそう難しいものではなく、これが車体メーカーへと発展する第一歩となったのです。

「変革期」にある現在の日本

現在の日本は「変革期」にあると言われています。世界経済は、減税や補助金といった各国の諸施策により、若干の落ち着きを見せてはいるものの、現実は、リーマンショック以降、あまり変わっていないように感じられます。国内自動車業界、その中でも私たち車体業界を取り巻く環境は、大型・中型トラックの新車需要が激減し、底打ち感はあるものの低迷状態が続いており、依然として先が見えない状況にあります。一方で、CO_2削減や廃棄物処分量削減、ＶＯＣ排出抑制、商用車架装物リサイクルなど、業界として環境問題にも着実に取組んでいく必要があります。

このような状況下では、従来の延長線で経営を考えるのではなく、新たな時代に向け、あるべき姿を描き、経営を変革していくことが肝要であると思っています。その際、「創業の志」や高邁な「理念」に思いを致すことは大変役立つと思います。「生きるか死ぬかの時に何を青臭いことを」という言葉が聞こえてきそうですが、業績が低迷して社員が動揺しがちな時ほど、トップは会社が守るべき価値観を社員に伝える必要があります。冒頭で弊社の歴史を振り返ったのも、創業者の薫陶を受け、私たちの心に刻み込む必要があると思ったからです。

「創業の志」に返る時

弊社の創立趣意書は、いかにも往時を偲ばせる古い表現ですが、現在も佐久間一郎の使命感を直截に訴える光を失っていないと思います。

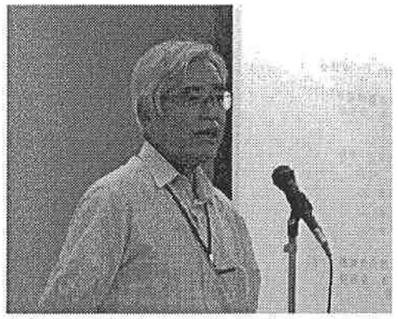
一、交通運輸機関ノ回復整備
二、自動車ト燃料問題
三、電気自動車ノ実用化…

佐久間一郎は、使命のおもむくところ、終戦直後のガソリン不足の中、バッテリーを動力源とする電気自動車でいこうと考える柔軟性を持ち合わせていました。これは、経営環境が悪いことを決して言い訳にしない創業者の器量・度量の大きさを感じるところでもあります。

多くの企業は、創業の志を受けた「理念」の中に“世の中への貢献”や“顧客指向”を掲げていると思います。いつの時代であっても「“価値”あるモノづくりにチャレンジし、市場やお客様を満足させ続けること」が時代を打開する最良にして唯一の方法であると思います。車体業界も、こうした原点に返り、お客様のニーズにすばやく柔軟に応えられるモノづくりに取組む必要があると考えています。さらに、人と地球にやさしい、サスティナブルな循環型のモノづくりが必須になると思います。

私たちも、それぞれの先人達の志に返り、草創期から受け継がれてきたスピリッツを絶やすことなくモノづくりへの熱意を燃やし、この難局を乗り越えていきたいと思います。

環境対応事例発表会を開催


挨拶をする安田委員長

日本自動車車体工業会環境委員会（委員長・安田善次・関東自動車工業㈱代表取締役会長）は、7月16日、自動車会館内くるまプラザにて環境事例発表会を開催した。

本年度は当会で展開中の「環境負荷物質フリー宣言推進活動」に沿った実施事例をメインに、会員相互の技術共有化を図った。参加者は、自動車専門誌3社を含めて100名で、多くの会員が出席した。

発表会は、安田善次環境委員長の「本日の環境対応事例発表会が、少なからず会員各社の皆様方の取組みのご参考になれば」との挨拶に続き、車体架装メーカーにおける生産現場での取組み事例を、各社より発表があった。

環境への取組み

～新技術から手作りにいたる改善事例紹介～

関東自動車工業株式会社
安全・環境部
部長
花井　宏行

今回の発表は、2010年度を目標年度として策定した当社の「第4次環境取組みプラン」における2008年度の活動内容を主体にまとめている。現在取組んでいる当社の「第4次環境取組みプラン」は、下記4つのテーマで構成されている。

A．エネルギー・温暖化、B．資源循環
C．環境負荷物質、D．環境経営

その4つのテーマに対し大別すると、2通りの取組みを実施している。1つは開発・設計（環境に配慮した製品・技術開発）の取組みであり、2つ目は生産・物流（排出物を出さない生産活動）の取組みである。今回は工場環境分科会からの発表であるため、生産・物流に焦点を絞り、また、紙面の都合よりA．B．D．の説明とする。

A．エネルギー・温暖化

1）生産に伴うCO_2排出量低減の着眼点として
（1）省エネ設備の展開
①具体事例：・コジェネレーションシステム導入
・燃料転換
（2）日常運用改善、手作り改善
②具体事例：・エネルギー使用状況の見える化
手作り改善事例として
・エアレス吸着機による省エネ
・空調排風の有効活用による発電
（3）自然エネルギーの有効活用
③具体事例：・雪室による冷房（岩手工場）

B．資源循環

1）資源有効利用の推進として
（1）排出物の低減
①具体事例：・未着塗料の低減
・新排水処理システムの導入
（2）水使用量の低減
②具体事例：・水のリユースによる有効活用事例
・雨水の活用事例
（3）物流梱包資材使用量の低減
③具体事例：・ダンボール→エアキャップ化
（気泡緩衝材）

D．環境経営

1）マネジメント
・環境教育の充実
（全階層教育＋体験活動を通した環境意識向上）
2）社会との連携
・地球環境を保護し、自然を次世代に引き継ぐために行政や民間団体と共同で活動推進

以上、述べたような取組みを実施してきたが、昨年度は大幅な台数減による生産効率の低下でCO_2排出量の原単位が悪化した。その反省を踏まえ本年度は、「日常の管理改善」や「手作り改善」を地道に積み上げていく活動を継続していく。

また、一人ひとりの環境意識啓発活動を継続すると共に、人・社会・地球環境と調和し「健全な企業活動を通じて社会に貢献していく」ことに努めていく。

架装物の環境負荷物質フリー化維持・推進の取組み

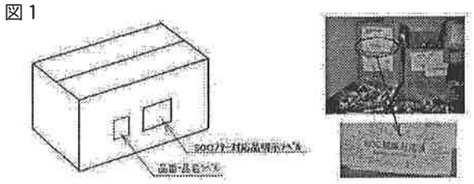
極東開発工業株式会社
特装事業部 生産本部
生産推進部係長
本田　成二

当社では環境負荷物質（Substances Of environmental Concern；以下、SOC）フリー化に向けた取組みを、生産本部長をトップとする管理体制の下、当社全工場および開発部門で2005年7月よりスタートさせた。日本自動車車体工業会（以下、車工会）自主目標を踏まえ、SOCフリーの定義は「一般標準部品において、SOC4物質含有の程度が、欧州ELV指令で掲げられる許容値（閾値）未満であること」とした。これはSOCフリーのレベルをより数値化して捉える狙いからであった。

1. 仕入れ先への協力依頼

取組み開始1年後、社内の情報共有化が進んだこともあり、仕入先各社へ当社の取組み方針を文書で連絡した。具体的には当社に対するSOCフリーの証明は、分析証明（以下、エビデンス）、またはSOC非含有宣言書（以下、宣言書）の提示とし、併せて「SOCフリー対応品」という明示をして納品いただくこともお願いした。文書によるお願いだけではなく、個別に説明も実施した。（図1）

図1



2. 目標達成

当社の製品の構成部品の中には分析により元々SOCフリーであったものも少なくなかったが、仕入先は対象部品1つ1つでそのサプライチェーンを辿られ当社の方針を地道に伝達、エビデンスや宣言書が当社に着実に揃ってきた。その結果、取組み開始から足掛け2年半経過した2007年12月末、「車工会自主目標に到達した」との判断に至り、2008年度の当社環境レポートに公開した。

3. 目標達成後の維持活動

これまでの取組みを踏まえSOCフリー達成後の体制維持の為、大きく次の7つの取組みを続けている。

（1）エビデンス、宣言書の見える化
品番毎、サプライチェーンを始めエビデンス・宣言書を識別してデータベース化している。
（2）SOCフリー化達成ラインのカンバン設置
各工場共、独自に工夫したカンバンをSOCフリー化達成ラインに掲げ、現場の意識強化を徹底している。（図2-1、図2-2、図2-3）

図2-1

図2-2

図2-3

（3）部品棚の整頓
各工場共、SOC対応部品を保管する棚にはその旨を大きく掲げ、SOC含有部品との混在防止を図っている。更に、仕入先からの納品時、SOCフリー明示忘れがある場合、一時保管棚を設けてエビデンス・宣言書類が確認されるまで使用しない。
（4）仕入ルート変更時におけるSOCフリー再チェックの徹底
1次仕入先より上流の部品製造工程の変更は、当社の承認後とする運用を徹底している。
（5）仕入先との生産会議開催
各工場共、毎月生産会議を通じてSOCフリー維持をお願いしている。
（6）パーツセンターに対する部品供給時のSOCフリー品の明示
当社では補給部品対応にパーツセンターがあり、部品は原則工場から仕入れる。工場側がSOCフリーを確認できた部品については、パーツセンターへの納品段階でSOCフリーである明示の徹底を図っている。結果、パーツセンター側でも部品の識別管理が効率的に行える。
（7）カタログ・パンフレットでSOCフリー達成表記を拡大
カタログ・パンフレット増刷時に、SOCフリーを実現した製品である事を追記する改訂を実施中である。（図3）

図3

SOC free　カドミウム・鉛・水銀 及び 六価クロムの削減を実現した製品です。

環境負荷物質（SOC4）削減・全廃規制への取組み

株式会社トランテックス
営業本部
商品企画課主任
鶴瀬　正博

当社では次の環境負荷物質削減・全廃基本方針を基に2005年7月より活動を始めた。

①規制不適合品を工場に受け入れない。規制不適合品を工場から出さない。

②車体工業会・トヨタ自動車・日野自動車の自主規制に準拠する。

③お客様からの支給品・指定品には代替品を提案し、支給品・指定品を減らす。

取組活動推進にあたり、まずは社内の役割を明確にすべく業務体制を構築し、次に車体工業会・トヨタ自動車・日野自動車からの自主規制内容を参考にアレンジした内容を、仕入先へ展開した。

そこで、環境負荷物質削減・全廃の取組活動の中で起きた5つの問題と解決策を紹介する。

1）仕入先からの環境負荷物質を納入しない非含有宣言書の提出

当社からは、部品毎の証明をお願いするにあたり、5つの書類を提出していただくよう説明した。しかしながら、部品毎の証明には膨大な仕事量や時間・費用負担が大きく非含有宣言書の提出が難しいとの話があり、次のように証明方法を変更し問題を解決した。

【解決策】

全原料のSOC含有量（実測データ）組成割合が判っておれば、工程でSOCの混入無き事の証明（工程確認書等）を基にした、非含有宣言書を提出することで、同一工程で生産される個々の部品の証明は不要とした。

2）塗装工程の作業改善

環境負荷物質フリー塗料は従来品と比較して隠蔽性や付着性が劣り、そのため使用量が増え作業時間が長くなった。

【解決策】

塗料の選択や作業指導について特装メーカーの協力を得て、問題を解消した。

3）仕入先様からの価格アップ要請

環境負荷物質フリー品への切替にあたり、仕入先より従来価格に対し大幅な価格アップ要請があった。

【解決策】

自動車業界全体の活動であることや当社の環境方針をご理解いただけるよう説明し、仕入先と共同で価格維持に向け、部品検討会等で原価低減案を出して価格維持活動を実施した。

4）非含有部品への切替および在庫消化

コストアップした部品の切替や在庫消化が困難な部品の廃棄には大きな費用負担が伴い都度の経営判断が必要になった。そこで次の取組みにより円滑な切替が出来た。

【解決策】

役員参画のフォロー会議を毎月実施し、期日間際の部品切替調整と在庫消化の状況把握に努力した。2008年3月末には流動していない部品を廃棄することで不適合品を工場内から全廃とした。

5）お客様支給品と指定品の扱い

商用架装物にはお客様からの支給・指定品を工場で取付する特有の事情があり、それらの部品について含有状況が把握できない問題があった。

【解決策】

当社が推奨する代替品を提案させていただく営業活動を行い、お客様からの支給品・指定品を減らす努力を行った。

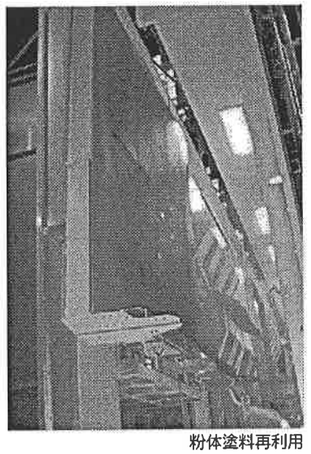
当社ではこれらの問題点を克服することにより、環境負荷物質フリー宣言を行うことが出来た。また、今後も活動維持を続けると共に地球環境に優しい製品を提供するよう心がけていきたい。

ばらの咲く工場 環境保全への取組み

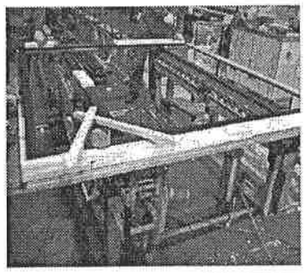
日本フルハーフ株式会社
総務部シニアスタッフ
福沢　猛美

当社は、環境に優しい活動として、脱有機溶剤化を目指し、1993年8月、バン・トラックボデーに使用する小部品の粉体塗装を開始し、2003年8月、ボデーフレームの粉体塗装ラインを稼動した。粉体塗装は塗着効率が約70%であり、残りが廃棄物となる。

そこで、2006年6月より廃棄物となる粉体を回収し、品質を保ちつつ再利用することに着手した結果、2007年11月ほぼ再利用化ができた。



粉体塗料再利用



断熱材再利用

また、温度管理車に使用しているポリスチレンフォーム断熱材の優良端材をフレームに再利用している。今後も更に3Rを追及し、環境保全に貢献していく。

さて、当社は輸送用機器製造業であるが、1984年より『工場に潤いを』とばらを植え始め、現在、300種類、800本のばらを育てている。近隣の方にも観賞していただきたいとの思いで、毎年5月第3日曜日、本社厚木工場を開放し『ばら観賞会』を開催し、今年で22回を数えた。約1万5千人の方々が入場し、ばらの撮影や苗木の即売会で安らぎのひと時となっている。近隣の養護老人ホームの方が毎年楽しみにされたり、中には千葉、静岡など遠方から来られる方もいる。

日本フルハーフ㈱は環境活動を通じて、社会および地域の方々と調和・共栄を目指していく。

ばら観賞会風景

ISO14001環境マネジメントシステム（EMS）認証取得のメリットと取得方法

㈶日本自動車研究所審査登録センター
（ＪＡＲＩ－ＲＢ）
審査部専任審査員
清水　英之

1. 日本でのＥＭＳ導入状況

日本の企業数は500万社でその内ＥＭＳ導入企業は2.7万社で、導入率は0.54%である。地球環境の将来を考える時、さらに多くの企業にＥＭＳ導入が望まれると思う。

2. ISO14001環境マネジメントシステム認証取得のメリット

メリットとして主に以下のようなことが挙げられる。

1）環境パフォーマンスの向上…CO_2の削減、廃棄物の削減、化学物質・重金属の削減・廃止などが考えられる。

2）利益確保…これは本来業務でムダ廃止などの改善を行い、利益確保するとともに結果として環境に優しくなることである。

3）企業体質強化…ＥＭＳ導入により管理者のマネジメント力量の向上に繋がる。

4）法令順守…近年、環境に関する法令は目まぐるしく制改訂が行われているが、法令順守は避けて通ることは出来ない。

5）緊急事態の回避…ＥＭＳの導入は油漏れ等の重大な環境事故回避につながる。

6）地域との共生

7）企業イメージの向上

3. 認証取得方法

1）システム構築・運用についてコンサルタントに依頼にされていることが多いようである。

2）審査のステップは、審査登録申し込み→事前調査→審査契約→準備確認→文書審査・本審査→判定委員会→登録書発行の順で行われる。

4. 認証取得に当たってのポイント

1）トップダウンシステムのためトップの理解・思い入れが大切である。

2）規格要求事項に適合していることはもちろん、システムが有効に機能して狙った成果を出すことが大切となる。

以上簡単な説明ではあるが、詳細についてはＪＡＲＩ—ＲＢまでお問い合わせいただきたい。

本部だより

■中央技術委員会を開催

中央技術委員会（委員長・田中勝志・極東開発工業㈱会長）では、6月22日に第1回委員会を開催、2009年度中央技術委員会の事業計画に関し、次の項目について推進状況等の報告をした。

（1）法規関係の対応
- ナンバープレート取付け基準案（17機種の適用除外要望提出）
- 型式指定車の完成検査合理化
- 改造自動車届出項目の見直しおよび自主基準洗い出し

（2）部品／装置／仕様の共通化等活動進捗確認
- 新規4件、継続2件

（3）基準化／標準化活動進捗確認（JABIA規格）
- 新規5件、継続4件

（4）部会調査研究活動進捗確認
- 新規調査研究6項目

（5）会員の技術レベルアップ支援
レベルアップ支援のニーズ調査結果から、2項目について実践の可否を検討中

また、委員会に先立ち、自動車検査法人担当官を講師に招いて「トラック等の軸重計算の見直し」に関する説明会を実施した。

■中央業務委員会を開催

中央業務委員会（委員長・比企能信・日本フルハーフ㈱社長）では、6月26日、第1回委員会を開催した。

本年度より法制・税制対応分科会とコンプライアンス分科会（旧不正改造根絶分科会）の2分科会体制で進めており、2009年度事業計画に沿っての進捗状況等を委員長へ報告、各課題等の論議を行った。主な内容は以下のとおり。

（1）雇用調整助成金・中小企業緊急雇用安定助成金への要望をまとめて理事会に提案し、厚生労働省へ要望を出す。

（2）企業倫理徹底関係アンケートを実施し、活用状況／課題を明確にする。

（3）下請取引ガイドラインの確実なる徹底依頼を発行する。

（4）「生産台数変動分析は」は書類を発行するスピードを最優先する。

（5）「各部会課題の共有化」資料は有用なため、継続する。

■雇用調整助成金／中小企業緊急雇用安定助成金への要望書提出

中央業務員会で原案を作成し、理事会で承認された題記の要望書を7月23日付けで厚生労働省職業安定局雇用開発課課長宛に提出した。内容は、「前年同期比でのマイナス」だけでなく、「2年前同期比でのマイナス」等である。他業界の状況等も考慮して検討したい、とのことであり、今後フォローしていく。

■「商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況」を報告

環境委員会（委員長・安田準次・関東自動車工業㈱会長）では、7月21日に三田共用会議所において産構審環境部リサイクル委員会へ「商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況」の報告を実施、委員からは特に内容についての御指摘はなかった。自主取組みの報告概要は以下のとおり。

1．リサイクル設計の推進

（1）車体メーカー各社にて製品展開拡大中

（2）環境基準適合ラベルの貼付目標達成済み

（3）易解体性向上、解体マニュアル充実のためバン型車解体実験実施

2．環境負荷物質の使用削減

鉛、六価クロム、水銀、カドミウムの4物質すべて目標達成済み

3．リサイクル・適正処理の推進

協力事業者制度の維持、継続中

4．情報提供、啓発活動の推進

関連事業者との情報交換継続

架装物チラシ・協力事業者制度参加事業者リストの配布継続

■第202回理事会を開催

7月16日、当会会議室において第202回理事会を開催した。

審議事項「新入会員に関する件」、「評議員の変更に関する件」の他（詳細議題については15頁車体工業会活動報告・第202回理事会参照）、2009年度本部・部会事業計画1/4期実績まとめと課題、2009年上期国内商用車販売状況と会員生産台数について等を資料により説明し、了解を得た。

また、理事会に先立ち、常任委員会も開催された。

■人事労務研究会労政合同分科会を開催

当会人事労務研究会は、7月24日、自動車会館1階くるまプラザで部品工業会との労政合同分科会を開催した。

テーマは「経済危機対策の現状と今後」として情報交換を実施。役員・管理職賃金の減額や製造業派遣、期間従業員の契約終了等について参加会社から報告があった。

また、雇用調整助成金受給については多数の会社が受給しており、受給開始までに地域差がある等の報告があった。

■自動車産業労政合同会議を開催

当会人事労務研究会は、7月24日、日本自動車工業会大会議室にて自動車工業会、部品工業会とともに自動車産業労政合同会議を開催した。

テーマを「改正労働基準法の内容について」とし厚生労働省 労働基準局監督課 調査官の富田 望氏を講師に招き講演会を実施した。

今回の労働基準法の改正は2010年4月施行で、主な改正項目は時間外労働の割増賃金率引上げ、割増賃金引き上げの努力義務化、有給休暇の時間単位での取得等となっている。講師から各社へ積極的な取組み要望があった。

■自動車産業労政合同勉強会を開催

当会人事労務研究会は、7月28日、日本自動車部品工業会第5会議室にて自動車工業会、部品工業会とともに自動車産業労政合同勉強会を開催した。

テーマは「仕事と家庭の両立支援」として情報交換を行った。その中でも先進的事例の紹介として2社の内容が紹介された。出席会社からは今後の取組みや対応についての質問やアドバイスがあった。

部会だより

トラック部会

■第3回部会会議を開催

トラック部会（部会長・堀尾浩二・不二自動車工業㈱社長）では、7月21日に16社18名が出席し、本年度第3回の部会会議を実施した。

はじめに、新入会員の㈲日成自動車 代表取締役 松丸 陽三郎 氏の紹介を行った。

会議では、以下の内容の報告と論議がなされ、次回に向けて、委員会毎に事業計画を進捗させていくことが確認された。

（1）技術委員会
- 部品共通化の候補部品の紹介
- 大型トラック後部ナンバープレート取付緩和要望等

（2）業務委員会
- コンプライアンスと社内倫理に関するアンケートを実施していること等

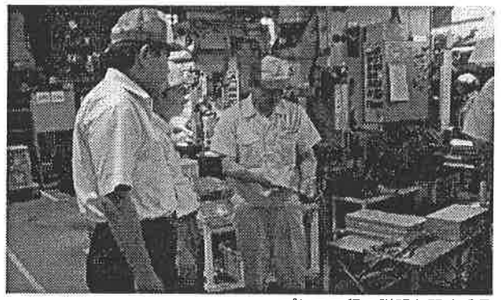
バス部会

■大東プレス工業㈱本社工場見学会を開催

バス部会資材委員会（委員長・吉田博明・ジェイ・バス㈱調達部部長）では7月14日に開催した資材委員会で大東プレス工業㈱の大阪本社工場を訪問し、バス用ミラーに関する打合せを行うとともに、工場の見学を行った。

バス用ミラーは車外用・車内用を合わせ、100種類を超えるミラーを有しており、法規の見直しに合わせた種類削減について検討を進めている。今回、製造現場を見学させていただいた結果、多品種少量生産に対するさまざまな工夫点やご苦労されている点について、具体的に教えていただくことができた。

また、種類削減を進め生産効率を高めることが、品質向上やコスト面で重要であることを改めて認識することができ、非常に有意義な見学会となった。



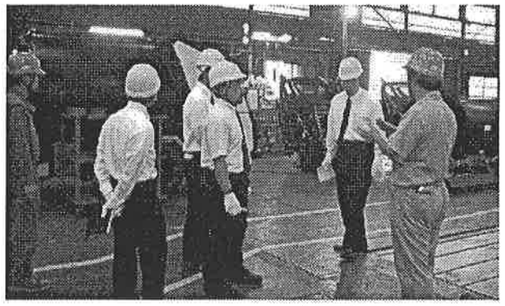
プレス工程の説明を聞く委員

■㈱モリタエコノス本社工場見学会を開催

バス部会塗装デザイン研究会（委員長・平井照純・ジェイ・バス㈱受注設計部上級スタッフ）では本年度の事業計画に基づき、7月22日に㈱モリタエコノスの大阪本社工場を訪問し、特装車の工場見学を行った。

当日は塵芥車や衛生車の製缶（架装物製造）工程、架装工程、塗装工程を見学するとともに、部品の調達管理の方法についても説明をうかがった。特に、塗装工程については、電着塗装ラインの見学をはじめ、特装車塗装の詳細にわたり見学をさせていただいた。

その後、バス塗装と特装車塗装に関する課題等について情報交換を行い、より幅広い知見を得られた工場見学会となった。



組立工程の説明を聞く委員

特装部会

■日本トレクス㈱本社事業所工場見学会を開催

粉粒体運搬車分科会（分科会長・内野秀治・極東開発工業㈱名古屋工場技術部部長）では、6月23日に9人が出席し、日本トレクス㈱の愛知県にある本社工場見学会および分科会を開催した。主な内容は次のとおり。

1．工場見学

本分科会では、本年度の事業計画の1つである、会員企業のモノつくり見学として日本トレクス㈱本社事業所を訪問し、工場見学を行った。

主にトレーラ、ウイング、バンの組立工程、架装工程、塗装工程を見学した。特に、出席者の関心が高かったのは、塗装工程で粉体塗装を採用することにより、サビ、衝撃に強く、かつ有機溶剤を使用しないため空気を汚さないなど高品質と環境対策を両立させていることであった。

2．粉粒体分科会

工場見学会終了後、日本トレクス㈱の会議室を借用して、粉粒体分科会を開催した。主な議題は、次のとおり。

- 粉流体運搬車用アルミタンクの経年劣化／耐久性の調査の実施状況
- 部品の共通化の進捗状況
- 新基準対応の後部突入防止装置の取付位置等の検討状況

特種部会

■ 業務・技術合同委員会を開催

特種部会（部会長・古庄忠信・㈱イズミ車体製作所社長）では、7月2日に本年度第1回の業務・技術合同委員会を開催、事業計画各項目の進捗確認を行った。

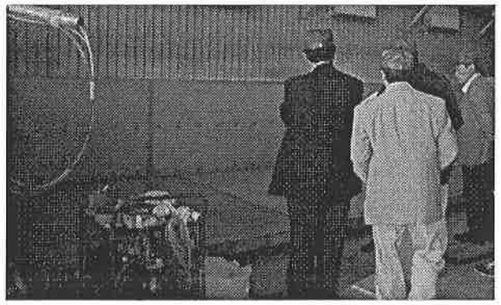
また、「特種要件の見直し要望」について技術委員会を開催（8/5、9/2）し、国土交通省への要望項目/自動車検査法人との技術検討会項目等に要望内容を分け、まとめを実施した。

■ 札幌ボデー工業㈱工場見学会を実施

特種部会では、7月17日、部会員20名が参加し、同業者工場見学会として札幌にある札幌ボデー工業㈱の見学を実施した。

同社は、1949年に創業以来、車体メーカーとしてボデー制作に一貫して取組んでいる中で特にFRP成型加工技術に力を入れ、外観のデザイン性に優れた製品を実現してきた。

また、地域発展の推進力になる企業づくりを目指して活動を続けている。「他社と同じモノは造らない」という開発ポリシーのもとで整理整頓された事務所、作業効率の良さそうな工場作業場、また大型バンのサイドパネルをFRP一体成形型で製造するなど、その優れたFRP技術に参加者一同大変感銘を受けた有意義な見学会であった。



サイドパネルのFRP一体成形型を見学する部会員

トレーラ部会

■業務・技術合同委員会を開催

トレーラ部会（部会長・西川柳一郎・日本トレクス㈱社長）では、6月5日に本年度第1回の業務・技術合同委員会を開催した。

事業計画のテーマ「安全への取組み」で、両委員会で協力して実施する実施項目の進捗を相互確認し、課題の整理と今後の対応について打ち合わせた。

1）安全への取組み活動
- 国土交通省主催の「国際海上コンテナ輸送に適したトレーラに係る調査検討会」に業務・技術委員長が委員登録し、検討会の場で発言していくこととした。

2）メカサス用の横転抑制装置の開発情報について

この合同検討会の結果を受けて、トレーラ部会技術委員会（委員長・印藤義信・日本トレクス㈱設計部申請業務室長）では、7月14日に委員会を開催し、業務の推進を図った。

1）横転抑制装置採用車種の調整
2）トラクタ側の横転抑制装置の機能確認結果報告
3）試験評価方法の整備

バン部会

■第2回部会会議を開催

バン部会（部会長・川本 豊・日本フルハーフ㈱取締役）では、8月7日に、本年度2回目となる部会会議を実施した。

川本部会長の挨拶で、昨年度来の不正改造の改修が、98.7％までになったこと、需要低迷の中、雇用調整助成金の活用等をしていることの紹介があった。

会議では、以下の報告と論議があった。次回に向け、委員会毎に事業計画を進捗させていくことを確認した。

（1）バン業界の広報活動として、全日本トラック協会のホームページに冷凍・冷蔵バンの取扱説明などを掲載してもらうことを検討
（2）技術委員長より、課題の進捗状況の説明
- バン解体調査結果について
- シャシ～ボディのハーネス締結状況調査の素案作成
- 大型トラックの後部No.プレート取付緩和基準について
- 大型後部反射器の改正について
- 環境ラベル貼付率向上のためのアンケート調査の内容の紹介

（3）業務委員会関係報告・6月分の生産台数状況

支部だより

関東支部

■不正改造排除運動を実施

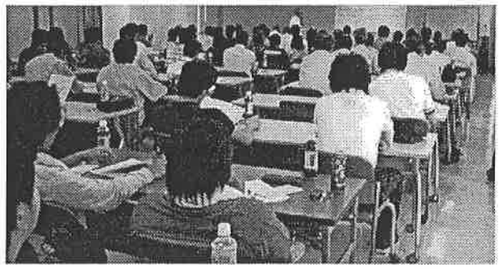
関東支部（支部長・荒井直人・富士重工業㈱執行役員）では、6月の不正改造を排除する運動の強化月間中に、関東運輸局からの通達に基づき、ポスター、チラシ、「不正改造車排除マニュアル（日整連発行）」等のグッズを支部会員に配布して、本運動の主旨を周知徹底した。また、各都県会において、運輸局および自動車検査法人の担当官による研修会および会員事業場視察（パトロール）を実施した。研修会参加者の支部合計は73社110名であり、事業場視察数は10社である。

中部支部

■「安全講習会を開催」

中部支部（支部長・山﨑茂雄 ㈱東海特装車社長）では、6月26日に安全「危険予知訓練（ＫＹＴ）・リスクアセスメント」講習会を、愛知県自動車会館にて外部講師を招いて開催した。

ＫＹＴは、指差し呼称・指差し唱和や健康ＫＹ等の実技訓練を中心に、リスクアセスメントでは、リスクアセスメントの考え方・目的等の講義に加え、リスクの見積もりや評価の演習を交え、少々きつい1日コースでの講習となった。



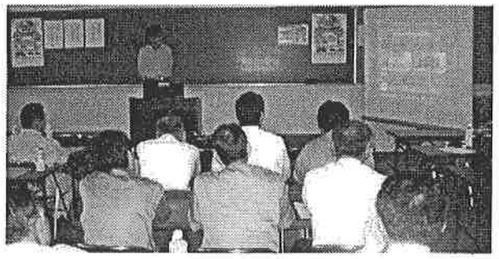
講習会には、身近なテーマ選定であったことに加え、雇用調整助成金・教育訓練費補助の受給申請に繋がることもあり、支部会員会社より会場定員一杯の83名もの参加があった。

参加者はもとより会社からも好評であり、継続した開催を望む声が大きいことも受け、支部では第2弾の開催を検討している。

九州支部

■不正改造排除運動、研修会を実施

九州支部（支部長・矢野羊祐・㈱矢野特殊自動車会長）では、「不正改造車を排除する運動」の6月強化月間にあたり、ポスター、チラシ等を支部会員へ配布し、本運動の主旨を周知徹底するとともに、6月23日、福岡県自動車整備振興会館において研修会を行った。



九州運輸局および自動車検査法人九州検査部に講師を依頼し、不正改造事例や指定部品などに関する講習を行い、支部会員（21社・38名）が参加した。

官公庁だより

■「保安基準等の一部改正」について

ー国土交通省ー

国土交通省は、7月22日付けで「保安基準等の一部改正」を行い、前照灯等の灯火器類、乗降口のドアラッチ等について規定した。主な内容は次のとおり。

1．前照灯

・光度要件を全面的に見直し、グレア光（対向車等に与えるまぶしさ）が低減されるよう、上方エリアの最大光度規制強化および下方エリアの最大光度規制を追加

・すれ違いビームと走行ビームの機械的な切換え機構の耐久性の要件追加

・プラスチックレンズ等の耐久性に関する条件追加

適用時期：2014年10月1日以降に製作される自動車

2．乗降口

乗車定員10人以下の自動車について、縦開きの後部扉に適用する試験方法の明確化など、乗降口のドアが衝突等による衝撃を受けた場合、不意にドアが解放し乗員が死傷することを防止する規定追加

適用時期：2012年8月12日以降に製作される自動車

3．座席ベルト

折り畳み座席（貨物車に設置するもの）および横向き座席（高速道路等を運行しないものを除く）についても座席ベルトの装着を義務付け

適用時期：2012年7月22日以降に製作される自動車

4．座席

・貨物車に設置する折り畳み座席についても座席の性能要件を適用

・前向き座席、後ろ向き座席および横向き座席を新たに定義

・自動車（乗車定員10人以上の自動車、車両総重量3.5 t超の貨物車、緊急車、患者輸送車およびキャンピング車を除く）には横向き座席の備え付けを禁止

適用時期：2012年7月22日以降に製作される自動車

5．灯火器および反射器並びに指示装置の取付装置

灯火の色が異なる機能が組み込まれている灯火の要件を次のとおり改正

・結合式または兼用式灯火の光度および色度要件は、測定する灯火以外の灯火が点灯していない時に満たすこと

・ただし、兼用式の車幅灯および尾灯は、他の灯火が同時点灯している時に他の灯火の色度要件を必ず満たすこと

適用時期：2011年2月7日以降に新たに型式指定等を受ける自動車

詳細は下記を参照。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07_hh_000033.html

■「審査事務規程」の一部改正について

ー自動車検査法人ー

自動車検査法人は、5月29日付けで審査事務規程の第50次改正を行い、灯火器の灯光の色について、測定器を使用した審査方法に関する規定を追加した。

適用時期：2009年6月8日より。

主な改正概要は次のとおり。

（1）車幅灯、側方灯、尾灯、後部霧灯、駐車灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯、方向指示器、補助方向指示器および非常点滅表示灯の灯光の色について、視認により赤または燈色でない恐れがあると認められる場合には、測定器により審査を行う。

（2）灯光の色の測定方法として、測定機器、測定条件、灯光の色（赤色および燈色）の判定基準を規定した。

改正内容等の全文は、自動車検査法人のホームページ http://www.navi.go.jp/release/20090529-1.pdf を参照。

■ エコカー改造車も重量税等の減免優遇措置が適用されます

ー経済産業省、国土交通省ー

環境性能に優れたエコカー（乗用車、貨物車等）である型式指定車等を一定の範囲内で改造したもの（特定改造車）であっても、自動車重量税、自動車取得税の減税措置および環境適合車購入補助金制度が適用されることになった。主な内容は、次のとおり。

●新規検査時等の手続き

（1）乗用車および車両総重量3.5t以下の貨物車
基本車の取扱いディーラーから、「算定燃費値取得済証」を入手し、検査時に提出。
※事前に自動車メーカーが国交省に算定燃費値の手続済みの車両は、系列のディーラーで、当該車両の「算定燃費値取得済証」を発行。

（2）車両総重量3.5t以上の貨物車等
いわゆる低排認定自動車、算定燃費値取得済特定改造自動車等は、減免優遇措置が適用されるが、基本車からの改造内容が、原動機、動力伝達装置、走行装置または燃料装置に係るものは、減免優遇措置が適用されない。
適用時期：2009年4月1日

詳細は下記を参照。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000038.html

■国際海上コンテナ陸上輸送高度化支援事業受付開始

ー国土交通省ー

国際海上コンテナの大型化等に対応したコンテナシャーシの導入を行う事業者に対し、40/20フィート兼用シャーシへの買換え費用の一部を補助する支援事業を開始した。（予算額2億5500万円）

・申請受付期間　2009年8月17日～2010年2月26日（申請状況により変更あり）

・補助対象経費

（1）買い替え対象シャーシと通常の40フィートコンテナ専用シャーシの差額

（2）20フィートコンテナ専用シャーシの廃車に要する費用

・補助率

補助対象経費の1/2以内。ただし、買換えについては75万円以内、廃車については10万円以内。

詳しくは以下を参照。（国土交通省ホームページ）

http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk4_000015.html

■「2009年度自動車低公害車化推進事業費補助金（廃棄物運搬車）」について

ー環境省ー

地方公共団体等が保有する塵芥車／ごみ運搬車等は、経済的負担等の要因によって低公害化が遅れている。このため、地方公共団体等が率先して次世代自動車を導入できるよう補助金制度を8月10日から実施（初年度登録が2009年4月10日に遡り適用）。

・予算額：35億円

・事業実施主体：地方公共団体／民間事業者（収集委託業者／収集許可事業者／リース業者）

・対象車種：廃棄物運搬車（塵芥車、平ボデー（廃棄物運搬用）、清掃車（バキュームカー））

・補助額（主なもの）

地方公共団体向け

積載量4t以上（通常車両との差額の100%相当の定額補助）

ハイブリッド車：275万円　CNG車：320万円

収集委託業者等向け

積載量4t以上（通常車両との差額の1/2相当の定額補助）

ハイブリッド車：137.5万円　CNG車：160万円

・申請受付期間：2009年8月10日～2010年2月20日

詳しくは以下を参照。

・「ご案内：平成21年度自動車低公害化推進事業費補助金」
http://www.jabia.or.jp/05/pdf05/pdf05-02/teikougai.pdf

・㈳全国都市清掃会議（環境省事業委託先）ホームページ：
http://www.jwma-tokyo.or.jp/asp/clp/Default.aspx

■「緊急人材育成・就職支援基金」による中小企業等雇用創出支援事業を開始

ー厚生労働省ー

厳しい雇用失業情勢の中、平成21年度補正予算により、非正規離職者等に対する新たなセーフティネットとして中央職業能力開発協会に創設した「緊急人材育成・就職支援基金」による以下の事業を創設。

①「実習型雇用支援事業」：2009年7月10日（金）から実施

十分な技能・経験を有しない求職者を、実習型雇用により企業の人材ニーズに合った育成を図ったうえで雇い入れる中小企業等に対して助成金等が支給されます。

②「職場体験型雇用支援事業」：2009年7月31日（金）から実施

介護・ものづくり分野等において、職場体験等を通じて求職者を雇い入れる中小企業等に対し助成金が支給されます。

各雇用支援事業内容は以下のとおり

（1）実施規模（2009年度から2011年度までの3年間）：実習型7万人、職場体験型2万人

（2）予算規模：約1620億円（中小企業等雇用創出全体）

（3）事業主への助成金支給内容：

・助 成 金　実習型により受け入れた場合
→　月額10万円
職場体験型により受け入れた場合
→　日数に応じ変化、最大17日以上10万円

・正規雇用奨励金
実習型／職場体験型終了後に正規雇用として雇い入れた場合　→　100万円

・教育訓練助成金（実習型雇用支援事業のみ）
正規雇用後にさらに定着のために必要な教育訓練を行う場合　→　上限50万円

詳しくは以下厚生労働省ホームページを参照。

http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/07/h0709-1.html

http://www.mhlw.go.jp/bunya/nouryoku/training/index.html

■自動車点検整備推進運動の実施について

ー国土交通省ー

国土交通省は点検・整備推進の一環として、9月1日～10月31日までの2カ月間を「自動車点検整備推進強化月間」として、点検・整備の重要性を自動車ユーザーに対して周知を図ることとしている。

この運動は自動車関係団体で構成する「自動車点検整備推進協議会」30団体、「大型車の車輪脱落事故防止対策に係る啓発活動連絡会」14団体で構成し、内閣府、警察庁、環境省の後援並びに、自動車検査独立行政法人、軽自動車検査協会、独立行政法人自動車事故対策機構の協力のもとに全国的に展開される。

本運動は「不正改造車を排除する運動」、「ディーゼルクリーン・キャンペーン」と連携を図りつつ、自動車ユーザー、自動車運送事業者に適切な点検・整備の必要性を理解していただくためのものである。

1. 重点項目

（1）点検・整備の必要性の啓発
（2）大型自動車に関する適切な点検・整備の方法について啓発

2. 重点実施方法

（1）自動車の点検・整備を推進するためのイベント等の開催
（2）総合的な広報・啓発活動の実施
（3）重点点検の実施
（4）マイカー点検教室、講習等の開催
（5）出前講座の実施
（6）黒煙の排出量の多い自動車ユーザーへの点検・整備の啓発

■ 労働基準法の一部改正法が成立

～2010年4月1日から施行～

ー厚生労働省ー

長時間労働を抑制し、労働者の健康確保や、仕事と生活の調和を図ることを目的とする「労働基準法の一部を改正する法律」が、2010年4月1日から施行される。

【改正のポイント】

① 時間外労働の割増賃金率の引き上げ
　25%→25～50%（残業時間に応じ変化）
　（中小企業については、当分の間、適用が猶予）
② 割増賃金引上げなど、労使で努力義務化
　（企業規模にかかわらず、適用）
③ 年次有給休暇の時間単位での取得可能化
　（企業規模にかかわらず、適用）

詳細は下記を参照。
厚生労働省ホームページ
http://www.mhlw.go.jp/topics/2008/12/tp1216-1.html
労働基準法の一部改正法が成立（リーフレット）
http://www.mhlw.go.jp/topics/2008/12/dl/tp1216-1e.pdf
改正労働基準法のポイント（リーフレット）
http://www.mhlw.go.jp/za/0730/d27/d27-01.pdf

■ 2009年度中小企業施策利用ガイドブックについて

― 経済産業省中小企業庁 ―

中小企業の方が中小企業施策を利用になる際の手引書となるよう、施策の概要を簡単に紹介している。各種ある支援策のうち、自身（各企業）が活用したい施策を簡単にさがすことができるよう、施策利用者の目的に合わせたインデックスを設けている。PDFでダウンロード可能となったので、ご活用いただきたい。詳しくは以下を参照。

中小企業庁ホームページ：「2009年度中小企業庁施策利用ガイドブック」
http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/g_book/h21/index.html

■ 中災防が実施する教育訓練は雇用調整助成金・中小企業緊急雇用安定助成金の対象に

ー中央労働防止協会ー

標記助成金について2009年6月8日付けで同助成金に係る教育訓練の判断基準が大幅に緩和され、中央労働防止協会の教育訓練も職長等教育を除き概ね助成対象になるので、紹介する。

中災防の教育訓練の概要について
http://www.jisha.or.jp/notice/pdf/20090410.pdf
雇用調整助成金の見直しについて（参考）
http://www.mhlw.go.jp/general/seido/josei/kyufukin/pdf/minaoshi.pdf

本件への質問は中央労働防止協会 企画広報部企画課（03-3452-6186）。

◆経済産業省人事異動（2009年7月14日）

製造産業局長
平工（ひらく）　泰文　氏
（前 近畿経済産業局長）
前任の細野哲弘氏は、
特許庁長官に就任されました。

製造産業局自動車課長
保坂　伸　氏
（前　資源エネルギー庁資源・燃料部石油・天然ガス課長）
前任の松永　明氏は、
産業構造課長に就任されました。

会　員　情　報

■代表者変更

・正会員

㈱アイチコーポレーション	代表取締役社長	佐藤	則夫
いすゞ車体㈱	代表取締役社長	名達	博吉
イワフジ工業㈱	代表取締役社長	及川	雅之
ジェイ・バス㈱	代表取締役社長	柴田	計
昭和飛行機工業㈱	代表取締役社長	酒巻	三郎
東南興産㈱	取締役社長	高森	勝隆
日産車体㈱	代表取締役社長	渡辺	義章
西日本車体工業㈱	代表取締役社長	黒川	学
日通商事㈱	代表取締役社長	丸本	智運
㈱富士シート	代表取締役	笠原	政賢
豊和工業㈱	取締役社長	坂野	和秀
㈱茂木鉄工所	代表取締役	茂木	喜明
新明工業㈱	代表取締役社長	磯島	吉晴

・準会員

共和レザー㈱	取締役社長	宮林	克行
サクサ㈱	代表取締役社長	越川	雅生
㈱エスワイエス	代表取締役	鈴木	和夫
㈱タチエス	取締役社長	田口	裕史
東洋ゴム工業㈱	代表取締役社長	榎本	秀樹
日本シーカ㈱	代表取締役社長	大場	孝一
日本ペイント㈱	代表取締役社長	酒井	健二

■社名変更

・準会員

㈱鈴木川品製作所　→　㈱エスワイエス
（2009年8月1日より）

■入会

・正会員

㈲日成自動車（トラック部会　7月16日付）
代表者　代表取締役　松丸　陽三郎
〒340-0813　埼玉県八潮市木曽根711-3
TEL048-994-4190　FAX048-994-4195
主要製品：平ボデー

■退会

・準会員

ＴＤＦ㈱（資材部会　7月1日付）

■移転

・正会員

日本機械工業㈱
〒104-0061　東京都中央区銀座1-19-7
TEL：03-3563-8051　FAX：03-5524-2410

㈱モリタ
〒669－1339　兵庫県三田市テクノパーク1-5
TEL：079-568-7800　FAX：079-568-7951

㈱互幸産業
〒379-2233　群馬県伊勢崎市平井町1354-1
TEL、FAXは変わらず

・準会員

平本工業㈱
〒482-0012　愛知県岩倉市稲荷町半田655
TEL：0587-66-3131　FAX：0587-37-6160

■住所表示変更

・正会員

名古屋ボデー㈱
〒459-8007　愛知県名古屋市緑区大根山2-203
TEL、FAXは変わらず

車体工業会活動報告

第 202 回理事会議事録

1．日　時　2009 年 7 月 16 日
2．場　所　当会会議室
3．審議事項
　第 1 号議案　新入会員に関する件
　第 2 号議案　評議員の変更に関する件
　第 3 号議案　環境負荷物質削減活動の件
　第 4 号議案　雇用調整助成金 / 中小企業緊急雇用安定助成金への要望提出の件

報告事項

1．2009 年度本部・部会別事業計画 1/4 期実績まとめと課題
2．2009 年度 1/4 期予実算まとめ報告
3．最近の商用車販売、生産状況について
4．「塗装工程のＶＯＣ削減」実績まとめと今後の対応
5．最近のトレーラ事故状況と当会対応
6．平成 21 年度補正予算の概要
7．その他報告事項

月度活動状況

◆６月◆

2 日	バン部会・業務委員会	当会
5 日	トレーラ部会・業務 & 技術合同委員会	〃
9 日	トレーラ部会・技術委員会	〃
12 日	特装部会・ダンプ技術分科会	〃
	特装部会・ローリ技術分科会	〃
16 日	関東支部・東京都会研修会	〃
17 日	バス部会・技術委員会	〃
	バス部会・扉の開閉制御専門家 WG	〃
	特装部会・ミキサ技術分科会	〃
	中央業務委員会 法制・税制対応分科会	東京
18 日	特種部会・技術委員会	当会
22 日	中央技術委員会	〃
23 日	中央業務委員会コンプライアンス分科会	〃
	特装部会・粉粒体分科会	愛知
24 日	特装部会・サービス委員会	当会
	資材部会・フィルム分科会	〃
	バス部会・業務委員会	〃
25 日	トレーラ部会・サービス委員会	〃
26 日	中央業務委員会	〃
	環境委員会	東京
29 日	特装部会・業務委員会	当会
30 日	特装部会・清掃車小委員会	〃

◆７月◆

1 日	特装部会・ローリ分科会	東京
2 日	特装部会・テールゲートリフタ技術分科会	当会
	特種部会・技術・業務合同委員会	〃
3 日	特装部会・脱着キャリア・コンテナ合同技術委員会	〃
8 日	バス部会・技術委員会	〃
9 日	トラック部会・技術委員会	〃
10 日	バス部会・ワンマン機器小委員会	〃
	トラック部会・PR 委員会	〃
14 日	トレーラ部会・技術委員会	〃
	バス部会・資材委員会工場見学会	大阪
15 日	特装部会・ダンプ業務・技術合同分科会	当会
16 日	常任委員会	〃
	第 202 回理事会	〃
	環境対応事例発表会	東京
17 日	特装部会・工場見学会	北海道
21 日	トラック部会	当会
22 日	トレーラ部会・サービス委員会	〃
	バス部会・塗装デザイン研究会工場見学会	大阪
23 日	特装部会・サービス委員会	当会
24 日	人事労務研究会・労政合同分科会	東京
	人事労務研究会・自動車産業労政合同会議	〃
28 日	人事労務研究会・自動車産業労政合同勉強会	〃
	バン部会・技術委員会	当会
29 日	特装部会・タンクローリ業務・技術合同委員会	〃

◆８月◆

4 日	環境委員会・工場環境分科会	当会
4 日	人事労務研究会・自動車産業労務担当役員懇親会	東京
5 日	特種部会・技術委員会	当会
	トレーラ部会・業務委員会	〃
6 日	バス部会・ワンマン機器小委員会	〃
	特装部会・テールゲートリフタ技術分科会	〃
7 日	バス部会・技術委員会	〃
	バン部会	〃
19 日	バス部会・塗装デザイン研究会	〃
21 日	特装部会・クレーン技術分科会	〃
24 日	特装部会・技術委員会	〃
25 日	資材部会・代表幹事会	〃
26 日	特装部会・サービス委員会	〃
27 日	環境委員会・架装物リサイクル分科会	〃
28 日	バス部会・扉の開閉制御専門家 WG	〃
	トレーラ部会・サービス委員会	〃
	広報委員会	〃

我が社の元気な人（げんきなにん）

2009.秋

犬に噛まれた痛さも営業トークに活かす

㈱浜名ワークス　トラック営業部　**小杉　啓介**さん

Q１どんなお仕事ですか？
トラックのリヤボデー販売営業です。ユーザー、トラック販売会社とボデー仕様の打合せをして、世界に１台しかないオーダーメードのボデーを製作しています。

Q２仕事で楽しいこと
仕様打合せした車が形になっていくところを見ている時や、納車時にお客様に喜んでいただくと、この仕事をしていてよかったと思います。

Q３これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？
お客様との打合せ時に、犬に足を噛まれたことです。お客様の手前、平気な顔をしていましたが、意識が飛んでしまうくらいの激痛が走りました。しかしその後、この出来事が訪問先での話題となり、痛かったけどよかったと思います。

Q４御社のＰＲをしてください！
弊社はお客様のご要望にお応えできるよう、オーダーメードにてボデーを製作しております。どのようなことにもお応えできるよう努力していきますので、よろしくお願いします。

物づくりが好きです！

四日市車体工業㈱　製造部　**田中　英明**さん

Q1 どんなお仕事ですか？
トラックの荷台を製造しています。主に平ボデー、ウイングバン等の煽り、サイドバンパー製作、板付を行っています。

Q２仕事で楽しいこと
物を作ることが好きなので、材料を切断したり、プレスしたりするところから完成までが楽しくてやりがいを感じます。

Q３これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？
これまでにやったことのない仕事の依頼を受け、大変でしたが、出来上がった時にお客様に満足していただけた仕事はどれも印象深いです。

Q４御社のＰＲをしてください！
オーダーメイドでお客様の希望に応じ、ご意見をうかがいながら納得のいただけるボデーを社員一丸となって製作しています。

NET WORK

会員会社紹介 Vol.57

地域の物流を技術とサービスで応援

上野駅から常磐線特急で約1時間。茨城県にある石岡駅に着く。さらにタクシーで約12分、ぶどう園の角を曲がりしばらく行くと、工場が見えた。
今回は、今年度から関東支部茨城県会長に就任した㈱ヤシカ車体を紹介する。

取材／㈳日本自動車車体工業会　事務局次長　瓜谷優一

株式会社 ヤシカ車体

DATA

■本社
〒315-0131
茨城県石岡市下林 3329-5
TEL 0299-44-8844（代）
FAX 0299-44-1839
URL
http://www.yashika-body.co.jp
■資本金　3千5百万円
■従業員　67名
■事業所規模
敷地　約 10,000 ㎡
工場　約 5,000 ㎡
■車体工業会加入
1997年（バン部会）

代表取締役
星　哲哉

特徴・沿革

特装車、特種車、トラックボデーの製造・修理・改造のスペシャリストとして、半世紀にわたり地域の物流に貢献している㈱ヤシカ車体。

その前身は1963年、横浜で設立された「㈲星モータス」から始まる。当時は横浜港で使われるコンテナの修理がメインであった。その後、1977年に茨城県へ進出し、1995年には現在の所在地である茨城県石岡市に㈱ヤシカ車体を設立する。

「半世紀にわたり会社を支えてきたのは地元密着、CS（customer satisfaction：顧客満足）というポリシー」と星社長は語る。

無理な営業エリアの拡大は避け、お客様個々の要望に応えるため、地元できめ細かな対応を心がけてきた。結果、自然と営業エリアも拡大し、会社として着実に成長を遂げている。また社員の経験、技能、技術といった目に見えない財産も増やすことになり、技能集団としても高度な資質を誇る。

今年8月1日には茨城県坂東市に「坂東サービス工場」を開設。この工場は、2007年9月に開設した千葉県白井市の柏営業所に続き2つ目のサービス工場となり、地域に密接したサービス工場を目指している。2007年12月にはISO9000：2000も取得した。

これからも仕事の仕方、サービスの質、会社のあり方を常に見つめ直し、㈱ヤシカ車体ならではの価値を高めていきたいという。

製品

――御社の特徴や代表的な製品などについてお聞かせください

星 社長　当社では、迅速な対応、利便性などを心がけ、ボデーの修理、製造に関してはお客様と相談しながら、決めていきます。

製品で特徴的なものは、枝肉運搬車という肉を運ぶための車やひよこ運搬車、移動展示車などがあります。どれも温度管理、運搬物の安定性が高く求められるもので、お客様からはニーズの高い製品となっています。

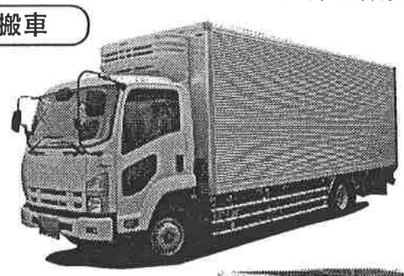
――御社設備で特徴的なものはありますか？

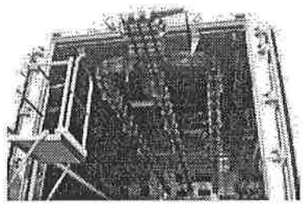
秤量20トン埋め込み式重量計、車両傾斜角度測定機がそれぞれ1機とシャワーテスターがあります。特に重量・転倒角度の測定器は当社で製作・修理した車両だけでなく、お客様のご依頼により測定を実施し、有資格者である計量主任者が証明書を発行するようになっています。

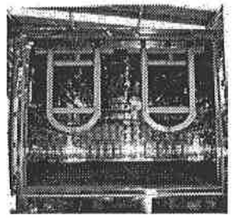
――今後の抱負、方向性などはいかがですか？

今年8月に新たに坂東サービス工場を開設、今まで以上に迅速なサービスの提供や商品への要望、情報収集などができるようになりました。こういったサービス工場をこれかも増やしていければと考えています。

枝肉運搬車

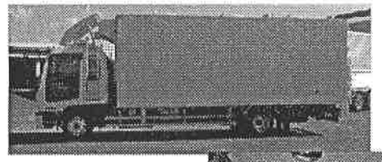


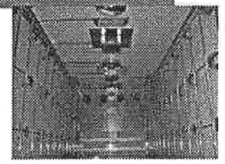




枝肉を吊るして運ぶ運搬車。
コンテナの天井には枝肉を吊るすためのレールがあり、出し入れが容易にできる（左はレールを外にのばしたところ。右は収納したところ）

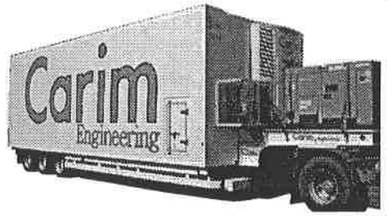
ひよこ運搬車



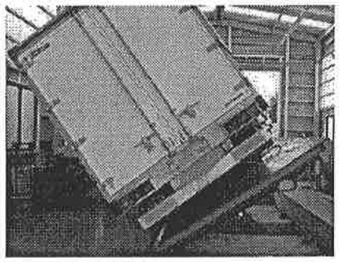


徹底した温度管理でひよこを目的地まで運ぶ。天井にはファンが取付けられ、ひよこに新鮮な空気を送り続けることができる。これはヤシカ車体が独自で開発した

特殊コンテナ



コンテナは創立当初から取り扱っており、お客様からも高い評価を得ている



最大安定傾斜角度の測定

今年8月に行われた坂東サービス工場の開所式

人

――それぞれオーダーの違う製造、修理ですが、作業はどのように進めていますか？

当社は規模がそれほど大きくないので、効率化というよりも、人を基本として作業を行っています。製造・修理などは従業員一人ひとりの経験、センスなどが求められます。どう修理するか、造り上げるかは担当した従業員の判断にある程度任せています。

――新人教育、技術の伝承などはどうしていますか？

新入社員でも中途採用者でも基本は仕事を見ながら覚えていくようにしています。設計図はありますが、細かい部分は職人技といえるものも少なくありません。作業しながら受け継いでいくしかないと思っています。

そこから責任感も生まれ、自分でなんとかしようという気持ちも強くなるんだと思います。

資材部会ビジネスネットワーク
STAGE 49

VOICE

私たち資材部会は、部会会員を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は、会員のより強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対するより積極的な協力体制が展開されています。

「VOICE」では、シリーズで部会会員会社の製品および技術が開発されるまでの経緯を紹介していきます。

㈱レゾナント・システムズ
トランジスタからICへ　時代を先取りした放送装置

㈱レゾナント・システムズ（旧・ネプチューン）はネプチューンラジオとして昭和27年に創業。以来、業界のニーズの先駆けを創り出している。

日本初の路線バステープ放送装置「TC-1型」

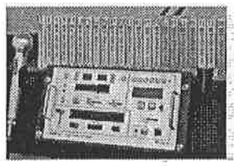
オール音声合成を実現したラムコーダー「TLS-1」

1962年、日本初となる路線バス用放送機「TC-1型」が発売された。それまでのバスは車掌が行き先、停留所案内を行っていたが、テープ放送で行き先を案内するという斬新なアイデアで、路線バスのワンマン化の実現に大きく寄与した。また整理券を発行し、料金を支払うという現在のバス乗降システム「中乗り、前降り」もこの頃の同社による発案だという。

1988年に発売したラムコーダー（TLS-1）は、音声合成というこれまでにない放送装置で、業界初ということもあり、注目も高かった。

しかし売り出し当初、メモリーはまだ高く、必然機械全体の価格は高いものとなった。「当時、プレゼンで機械の説明をして、お客様の手ごたえを感じつつ、販売価格を言った途端に場の空気が重くなったことが今でも忘れられない」と内山部長。その後機械本体の価格設定を下げる努力を行い、メモリーも値下げとなり、適正価格を実現した。

現在の放送装置はデータカードを差し込むだけで、


1979年に発売された「アンコール30」。
マイコン内蔵デジタルラジオでカラオケ、ラジオ受信、マイク放送、録音、ダイビングとバス規格ラジオ1台分の大きさで全てを搭載しているとバスメーカーに好評であった

現在発売中のFC-7000E。放送だけでなくECOドライブ、安全運転のサポートなど多目的な用途に対応している

系統・停留所データが利用できたり、安全運転、エコ運転の指導、車両の燃費管理まで行える。1台の機械で3役、4役以上の役割をこなしている。

また環境面でもテープを廃止したことで廃棄物の削減にも寄与、環境に貢献している。

これからの問題は過去のデータを取り込みつつ、いかに新しいデータを加えていくかだという。鳥越部長は「メンテナンスを行いながら使う会社さんが増え、バスの使用期間が長くなっています。放送機器も過去データと新しいデータを合わせて使用したいという要望が多く、データの互換を取り、使えるようにするのが大きな課題」と語る。

今後も多様化するバスのニーズに果敢に取組み、時代に則した商品を開発したいという。

内山勝正（1973年入社・右）
交通機器部長
サービス部門から営業に異動、本社、営業所勤務を経て、2007年から交通機器部を統括。

鳥越光暁（1981年入社・左）
インスツルメント部長
入社以後、製造現場を2年半経験し、開発部門で音声合成器、ゴルフ場省力化機器の開発を行い現在に至る。

□㈱レゾナント・システムズ（代表取締役社長　中山　鳩夫）
2007年、社名をネプチューンからレゾナント・システムズに変更。社会が必要としているものを生産するだけでなく、創造も行い、常に一歩進んだテクノロジーの開発に挑んでいる。

本社
〒230-0031 神奈川県横浜市鶴見区平安町2-4-6
TEL：045-503-3121　FAX：045-503-3149
http//www.resonant-systems.com

日本板硝子㈱
ガラス遮熱性向上で省エネに貢献

日本板硝子㈱では「ガラス」という日常生活に必要不可欠な素材にこだわり、さまざまな商品を開発、社会に提供している。

■ 最近の自動車用ガラスについて

特にハイブリッド車を中心に車の省エネが進み、乗員の快適性とエアコン負荷軽減に寄与する赤外線遮断ガラスの需要が増加している。

主にフロントガラスに使用される合わせガラスは、2枚のガラスの間に樹脂中間膜層（接着剤層）を備えたガラスとなっている。ガラス自体や中間膜層を工夫することで遮熱性能（赤外線遮断性能）向上させたさまざまな製品を開発・リリースしている。

ドアやリアーガラスに使用される強化ガラスは、1枚構成で割れにくく加工されている。特にドアガラスは、合わせガラスのように接着剤層が無く、遮熱シート等の使用が出来ないので、ガラスの組成により遮熱性能を改善した高性能熱線吸収ガラスが普及している。

■ 現状の問題点への対応

車のフロントドアより後ろのガラスに透過率の低いガラス（濃色ガラス）が使われるようになってきているが、このガラスは車内のプライバシーを保護するとともに、赤外線遮断効果も大幅に改善されており、後席の乗員は太陽光の直射による暑さから開放されるようになった。

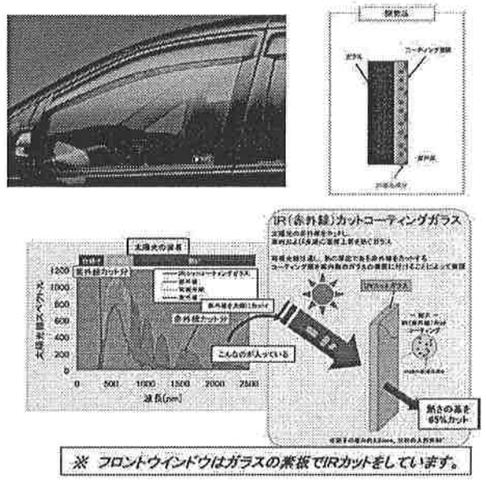
しかしフロントドアガラスは、法規により可視光線透過率が70%以上と決められているため太陽光中の赤外線遮断性能をガラスの組成により改善した。このガラスの採用は、米国では既に90%超、日本でも50%以上普及し、ますます増加してきている。

■ 自動車ガラスへの要望とその対応

そして、最近の市場の要求はフロントドアガラス

窓町　隆（1981年入社）
川崎工場勤務を経て、1988年から現在までテクニカルセンターにて開発商品を担当。

構成



の更なる赤外線遮断効果の向上である。同社では、コストアップを押さえながらこの要求に応えるために、強化ガラスの表面に0.1㎜程度の赤外線遮断膜をコーティング（ＩＲカットコーティング）する技術を世界で初めて開発した。

ＩＲカットコーティングガラスは、見た目は普通のガラスと変わらないが、ガラス越しに差し込んでくる暑い日差しを遮りながらも保安基準をクリアするという相反する2つの機能を両立、車内温度を下げ、エアコン負荷軽減によるCO_2排出ガス削減にも効果を発揮している。

今後も次世代の環境負荷対策へつなげていける商品の開発を目指す。

□日本板硝子㈱（取締役代表執行役社長兼CEO
スチュアート・チェンバース）
社業を通じて社会的責任を果たすと同時に、気候変動など地球規模での重要な課題への取組みをはじめ、改めてＣＳＲの推進に積極的に取組んでいる。

本社
〒108-6321 東京都港区三田3-5-27
住友不動産三田ツインビル西館
TEL:03-5443-9522　http://www.nsg.co.jp/

第5回 SPIN UP スピン・アップ トラック部会

トラック部会の環境と改善の取り組み事例や創意工夫による製品作りをユーザの皆様に紹介します。

溶接技術向上への取組み ―――― 名古屋ボデー㈱

弊社製品は溶接構造の部分が多く、個々の品質を溶接技術に頼ることが多くあります。そのため溶接の技術向上と各個人の能力を自ら再確認するため、社外から講師を招き溶接の講習を行っています。

今回は、32時間のプログラムで、溶接による金属接合法の分類や、原理、特徴の講義から始まり、ティグ溶接の実技演習を行いました。最終日には、溶接機を分解して、機械のメンテナンス、清掃についても講習を行いました。

溶接機の台数が足りないため、ティグ溶接機をレンタルし、全員が実技演習を実施致しました。

実際の技術向上もさることながら、作業員の工具の管理に対する姿勢や、溶接の仕上がりに対するこだわりの意識が向上し、成果を生んでいます。

名古屋ボデー株式会社
〒459-8007　愛知県名古屋市緑区大根山2丁目203番地
TEL 052-621-1111　　FAX　052-621-2220
URL http://www.nagoyabody.jp

地域に愛される企業づくり ―――― ㈱アイビックス

私たちの会社は、埼玉県大宮市（現在のさいたま市大宮区）で業務を行ってまいりましたが、工場周辺に住宅やマンションが建ち並ぶようになり、現在の住所に移転しました。

新しい地域でも愛される企業となるための活動やトラックボデー製造業のイメージアップ活動を積極的に取り入れています。

その中のひとつに社員有志による社外清掃活動があります。この活動は月2回、朝15分程度で主に工場に面している道路部分を掃除しており、近所の方にも好評を得ています。また、これが社員の意識改革にも繋がり、工場内の整理・整頓・清掃が進むようになりました。

株式会社アイビックス
〒331-0058　埼玉県さいたま市西区飯田354-1
TEL　048-620-2111　　FAX　048-620-2033
URL http://www.ivix-body.co.jp

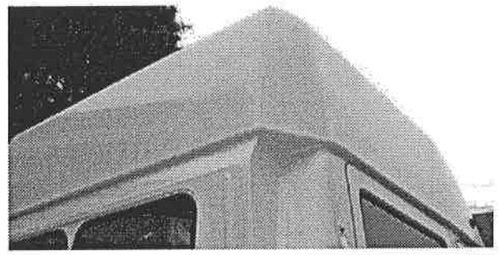
中型Wキャブにおけるハイルーフの開発 ―― 鉄道車輌工業㈱

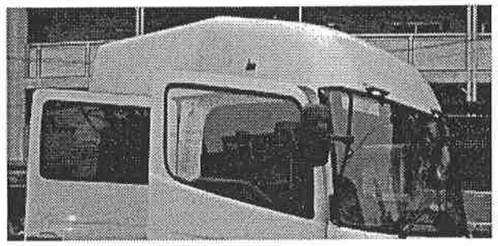
お客様からの要望で「美術品専用運搬車に同乗されるお客様に、より快適な室内」を提供出来る中型Wキャブ用のハイルーフを開発しました。

従来のリヤ室内高は1,480㎜と低く、室内で人が立つことが出来ませんでした。今回は1,850㎜以上の高さを確保し、またバックパネルを後方に150㎜移動したことでリヤスペースを確保でき、リクライニングシートが装着できて背もたれが倒せるようになり、従来製品よりお客様の快適度を高めました。

製作にあたり、キャブルーフを切り、キャブ形状の曲線に合わせるため、専用の治具が必要となりましたが、曲線形状の板金用叩き治具を一から製作しました。しかしキャブ本体の三次元データーを入手出来ず、純正のウィンド ディフレクターよりキャブルーフを三次元データ化し、治具製作に取組みました。

この治具により、フロントガラスの曲線・フロントピラー上部の曲線とルーフの曲面を構築することができ、きれいな形状を出すことに成功し、お客様に喜ばれています。





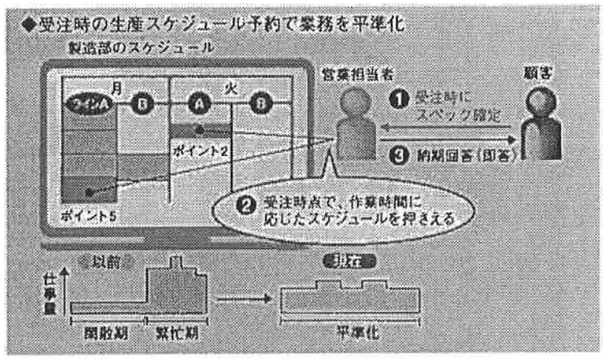
鉄道車輌工業株式会社
〒167-0034　東京都杉並区桃井2丁目19番8号
TEL 03-3396-7113　　FAX 03-5382-8569
URL http://www.tessha.com

2008年中小企業IT経営力大賞受賞

座席予約システムで残業削減、作業平準化を実現

―― ㈱東洋ボデー

弊社では生産ラインの負荷分散システム（通称・座席予約システム）を2005年に自社開発し、残業削減、作業の平準化を実現しました。このシステムは2008年2月に中小企業ＩＴ経営力大賞も受賞しています。



それまで繁忙期と閑散期の波が激しく、残業も多くありました。そこで考えたのが受注時に製造ラインのスケジュールを押さえるということでした。着手から6年を要する改善となり、システム立ち上がり当初は、営業の約束した納期に製品が入らないなど、苦労の連続でした。現場改善、営業担当者の意識改革などを行った結果、システム導入から3、4ヵ月後には残業時間が減っていきました。翌年の生産性は27％増加、また遅れを取り戻すために開かれていた生産会議も不要となり、間接人員1人あたりの自立型製品の売上高は41％増加しました。

現在もシステムの更新を行い、最適化を実施しており、更にＥＤＩ（Electronic Data Interchange：電子データ交換）による自動部品発注に向け、新たなシステム開発に取組んでいます。

株式会社東洋ボデー
〒208-0023　東京都武蔵村山市伊奈平2丁目42番1号
TEL 042-560-2111　　FAX 042-560-2110
URL http://www.toyobody.co.jp

そこが知りたい

第9回

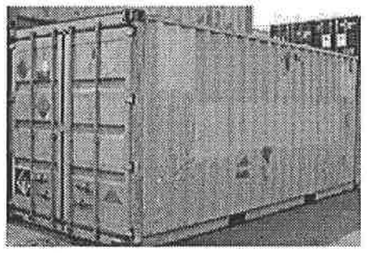
コンテナ積載用トレーラの構造とは？

最近、海上コンテナ用トレーラからコンテナが落下し、横転する事故が連続して発生した。

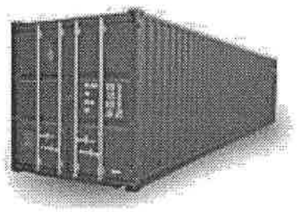
報道によるとコンテナ固定のためのロック装置がかかっていなかったとのことであるが、そもそもコンテナ輸送用トレーラや固定ロックはどのような構造となっているのか？

■海上コンテナとは？

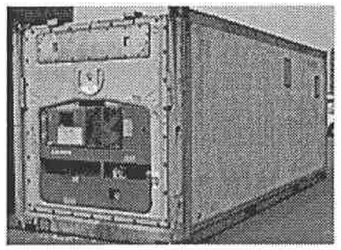
船舶輸送用コンテナであり、サイズ等は国際規格ＩＳＯで統一されており、日本では20ft（フィート）型、40ft型の２種類が一般的。欧州では最近45ft型が増えている。ドライバン型が多いが、保冷、冷凍、加温装置付きや液体輸送用のタンクタイプや屋根のないオープンタイプもある。



20ft型
Ｌ×Ｗ×Ｈ＝約6.1×2.4×2.6 m
最大24トン



40ft型
Ｌ×Ｗ×Ｈ＝約12.2×2.4×2.6 m
最大30.48トン



冷凍コンテナ

■コンテナ輸送用トレーラとは？

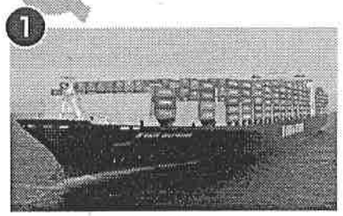
海上コンテナを輸送する専用トレーラであり、コンテナに合わせ20ft用、40ft用がある。最近は効率的輸送のため20ft、40ftの兼用型も発売されている。

20ft用

40ft用

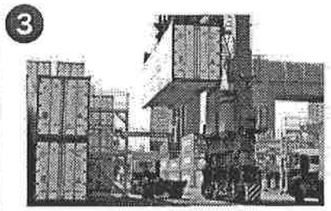
20ft、40ft兼用型

■一般的なコンテナの流れはどうなっているの？

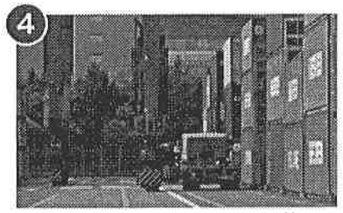


① コンテナ専用船で輸送

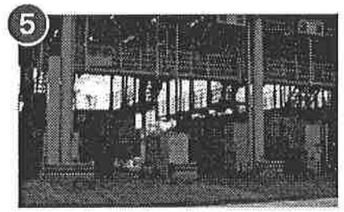
② 港（コンテナターミナル）に着くと、ガントリークレーンでコンテナを降ろし、構内用トレーラに積み込む



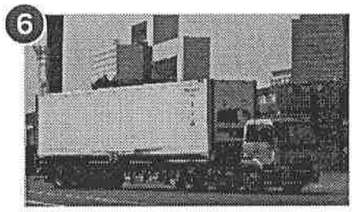
③ 専用のトランスファークレーン（荷物を上下させながら左右移動やタイヤで前後に移動可能なクレーン）で、構内ストックヤードに荷主毎に整理し、一時保管



④ トランスファークレーンで、公道用の海上コンテナ用トレーラに積み込む



⑤ 構内ゲートで運転手がコンテナ固定用ロックを実施（コンテナの固定ロックが出来ない場合は、構内ゲートにその旨を報告する）



⑥ 税関処理（伝票処理とコンテナ本体確認のみで中身は確認しない）後、荷物受け取り会社へ配達

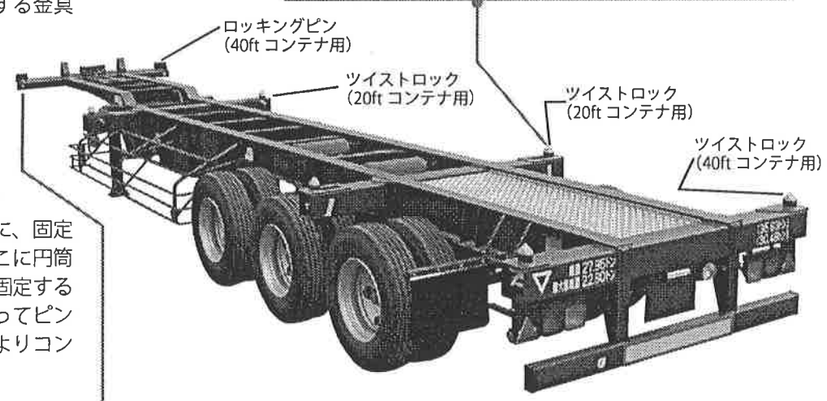
■コンテナ固定用ロックの構造は？

（1）ツイストロックの構造

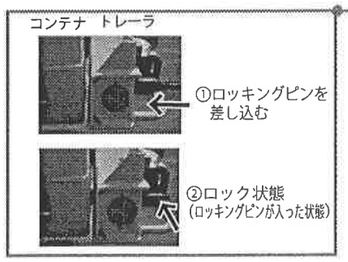
20ftコンテナの四隅および40ftコンテナの後部２カ所に、固定用穴が設定されており、そこに三角形状の突起を差し込む形で固定する金具である。三角形状の突起部を隅金具に差し込んだ後、中で突起部をツイスト（回転）させる形でコンテナが固定される。

（2）ロッキングピンの構造

40ftコンテナ前部２カ所に、固定用穴が設定されており、そこに円筒形状のピンを差し込む形で固定する金具である。横方向に向かってピンを固定穴に差し込むことによりコンテナが固定される。



（20ft、40ft兼用型）



安全対策としてのロックの確実性

このツイストロックおよびロッキングピンは、規格により世界共通に使われているもので、単純かつ、確実に固定される構造となっており、走行中に解除されることは無い。

※コンテナのロック作業は手動で行うが、最近の事故例ではこのロック作業をしていなかったとのことである。

資料提供：日本トレクス㈱ 他

member's essay

Coffee Break

夏本番　鮎到来

尾張車体工業㈱　伊藤　靖雄

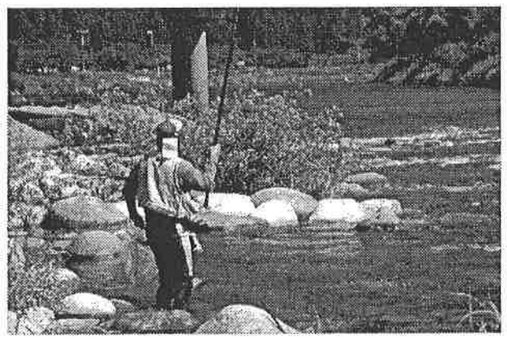
川面に水しぶきをキラキラさせ釣り糸をたぐる時、世の不景気も雑念も忘れ、無我の境地に浸り人生の幸せを感じるひと時です。つい昼食も忘れてしまいます。

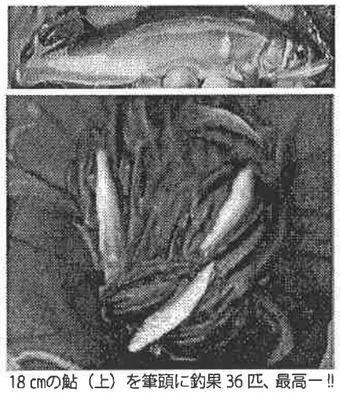
私は、高山に近い飛騨川沿いの白川で生まれ、小さい時から渓流に洗われて来ました。鮎釣りが大好きで、待ちに待った解禁日が来ると、まずは入漁券と親鮎を購入して、さっそく川へ出陣。第一投目に購入した親鮎の鼻にハナカンを通す時が一番緊張します。

いきなり荒瀬に親鮎を送り込むと購入した養殖鮎は弱いため、すぐに弱ってしまい釣りになりません。なんとか、とろばの瀬に親鮎を送り込んで天然鮎を釣る瞬間が魅力的です。

鮎は年魚といい、春に遡上して秋には落ち鮎となり河口で産卵して一生を終えます。この神秘的な鮎にほれ込んで鮎釣りにハマってしまいました。

神秘的な由縁は、秋に産卵した卵が10日ほどでふ化し、いったん海に戻って海でプランクトンを食べて春に稚魚として海から川に遡上してきます。稚魚のうちは水生昆虫系の食べ物を主として食べています。その時は、毛ばりとかしらす等のえさ釣りで鮎を釣ることが出来ますが、稚魚がだんだんと成長するにつれ食性が変わり、水生昆虫系から川の石に付いたコケを主食するようになり、鮎はえさ釣りでは釣れなくなります。コケを主食することにより群れ鮎～単独鮎に習性が変わり、自分のなわばり（1.8㎡）を持つようになり、その領域を守るために、他の鮎が入ってくると体当たりして追い出す習性に変化していく所が神秘的だと思いました。





18㎝の鮎（上）を筆頭に釣果36匹、最高ー!!

そんな鮎との格闘に虜となり、鮎釣りにハマっております。今年はどんな仕掛けで攻めようかとか、またどのような釣り方で釣果を伸ばそうかとか心がわくわくしてきます。

今年は、長梅雨で川の水量がかなり多く、鮎釣りにはなかなか行けませんが、８・９月に頑張ります。

七夕で"願いかなう"

トヨタ車体㈱　中島　恵子

私が生まれ育った安城市は、かつては「日本のデンマーク」と称されるほどの農業先進都市でしたが、現在は、農・商・工業のバランスの取れた都市で、非常に暮らしやすいところです。

安城市には、四季折々の花と緑にあふれ、大人から子供まで楽しめる公園「デンパーク」があり、私の好きな場所のひとつにもなっています。公園内には使用済みのてんぷら油を精製した燃料で走る列車"メルヘン号"がありますが、この車両のエンジンは、ダカールラリーで優勝したランドクルーザーのもの。私が勤めている会社、トヨタ車体のラリーチーム「ＴＬＣ」が提供した貴重なエンジンです。

安城市民の自慢のひとつに、"願いごと、日本一"をめざす「安城七夕まつり」があります。小さい頃から、そこで活躍する安城七夕親善大使（当時はミス七夕）にあこがれていた私は、長年の夢が諦めきれず思いきって応募してみたところ、幸運にも"願いがかない"、親善大使に選ばれました。

親善大使の役割は、安城市の素晴らしさや、安城七夕まつりをＰＲすることです。七夕まつり本番まで、連日報道機関や官公庁等へＰＲをしましたが、こうした事前の活動を通じ、「七夕まつりを日本一にしよう」という多くの関係者の熱い思いに触れ「しっかりと役割を果たさなければ」という思いが一層強くなりました。と同時に、より責任の重大さを感じました。

デンパークのメルヘン号をバックに

パレードに参加する神谷安城市長（左）と筆者

七夕まつり本番の８月７日～９日。竹飾りが華やかに飾られた総延長３．５キロの会場一帯では連日パレードや催し物などが盛大に開催されました。薄暗いうちから起床し、夜遅く帰宅するハードな日々が続きましたが、今年は122万人の方々に来場いただき、多くの笑顔に出会うことができました。私は七夕まつりを盛り上げる立場ですが、来場者の皆様に声をかけていただき、私自身もたくさんの元気をもらいました。

責任の重い仕事で大変でしたが、いろいろな出来事を通じて、安城市により愛着を感じるとともに、市民である誇りを一層感じることができた貴重な体験でした。

休日は釣人

㈱テンソー　薄井　健介

「あした、どこ行く？」

「そうだなー、ダム上とか良いんじゃないか？」

ほぼ毎週土曜日に交わされるこのやり取りは、私の高校からの友人Ｍとのものだ。

私は今、渓流のルアーフィッシングにハマっている。

ルアーフィッシングとは、魚や虫に似せたプラスチックや木で出来た疑似餌を糸の先に結んで釣りをする手法である。主なターゲットは「イワナ」「ヤマメ」で、こいつらを釣るのは一見すると簡単そうなのだが、いざ始めるとそれは渓谷の谷底奥深くに見える藍色の水を湛えた淵のように深く難解で、深層に達するにはあと10年はかかりそうだ。そう思わせるに足る「深み」を持っている釣りなのだ。

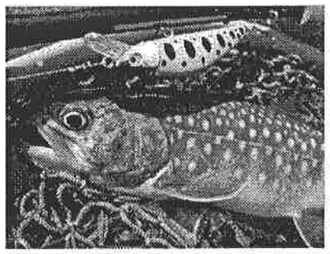
じゃあ、なぜ私がこの釣りにハマったのか。

それは５年ほど前になるが会社の先輩と初めて渓流に行き、とりあえず適当にほうったルアーで初めて渓魚を釣り上げた時、その魚の複雑な模様の美しさや色味、躍動感に感動したからである。もっと、この魚を釣ってみたい！もっと知りたい！そう思ったのだ。

昔からそうなのだが、思い立ったら即行動！の私はそれからすぐに釣具屋さんに走り、レジで暇そうにしているメタボな店員を引きずり回して渓流におあつらえ向きの道具をそろえた。

そして、やはり暇そうな友人Ｍに「一緒に渓流釣りやるべ」と声をかけたと「おう、いいぞ」と快諾してくれた。

実際に渓流は、二人で歩くと何かと都合が良いもので、二人で違う種類のルアーを使っていればその日の釣れ筋パターンを半分の時間でつかむことが出来るし、魚を持ってニンマリの写真も撮ってもらえる。



あるいは原流域では人工的な音は一切なくて、うっそうと茂った笹っぱの奥から聞こえてくる足音にビビッて一人では釣りどころじゃないが相方がいれば「あれ、クマだったらお前エサ。俺、助かる。」「大丈夫、黄色いクマだからハチミツくれるよ」ってな感じのやり取りが出来るので気が紛れるだろう。

「じゃあ、明日蟇沼（ひきぬま）の車止めで」

「おう、遅れんなよ」

そう言って電話を切った。

明日は車止めから２時間山の中を歩き、滝を高巻きゴロ岩をへつり、樹木に覆い隠された水のゆらりと流れるあの曲がり淵に幽閉されたヤマメを探しに行ってみようと思う。

トラック車体　2009年４月～６月生産台数

（単位：台）

用途	車の大きさ		4月 大型	4月 中型	4月 小型	4月 軽	4月 合計	4月 対前年同月比(%)	5月 大型	5月 中型	5月 小型	5月 軽	5月 合計	5月 対前年同月比(%)	6月 大型	6月 中型	6月 小型	6月 軽	6月 合計	6月 対前年同月比(%)
運転台	普通		6	40	1,871	0	1,917	40.5	8	31	2,335	0	2,374	31.0	7	39	2,655	0	2,701	35.7
	特殊		32	8	1,161	0	1,201	20.9	51	20	1,217	0	1,288	45.2	82	7	1,264	0	1,353	13.6
合計			38	48	3,032	0	3,118	29.7	59	51	3,552	0	3,662	34.9	89	46	3,919	0	4,054	23.2
対前年同月比(%)			46.3	49.5	29.4	0.0	29.7		49.6	38.1	34.7	0.0	34.9		65.4	33.6	22.7	0.0	23.2	
普通荷台／平ボデー	標識型(シャシメーカー標準車)		0	84	608	0	692	33.0	0	77	846	0	923	46.4	0	97	1,130	0	1,227	61.9
	普通型あおり(450㎜以下)	アルミブロック	16	20	0	0	36	44.4	11	18	2	0	31	28.2	20	36	7	0	63	51.6
		スタンダード(木製)	8	36	12	0	56	35.2	9	37	16	0	62	33.0	9	37	15	0	61	35.1
		その他(スチール、コルゲート等)	0	0	0	0	0	0.0	1	0	0	0	1	16.7	1	0	0	0	1	10.0
	深あおり	アルミブロック	32	23	20	0	75	36.4	27	25	13	0	65	34.9	37	29	29	0	95	42.2
		スタンダード(木製)	0	0	1	0	1	16.7	1	1	0	0	2	33.3	1	0	0	0	1	9.1
		その他(スチール、コルゲート等)	0	1	0	0	1	25.0	0	0	0	0	0	0.0	2	25	0	0	27	450.0
	チップ運搬車		0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0
	車輌運搬車	オートバイ積	0	0	3	0	3	33.3	0	0	2	0	2	40.0	0	1	3	0	4	66.7
		1台積	1	10	69	0	80	37.6	0	10	59	0	69	35.2	3	30	76	0	109	49.5
		2台積	0	2	1	0	3	17.6	0	0	2	0	2	13.3	0	2	1	0	3	37.5
		3台積	0	0	0	0	0	0.0	1	1	1	0	3	60.0	0	1	1	0	2	40.0
		4台積以上	3	1	0	0	4	28.6	2	0	0	0	2	16.7	4	0	0	0	4	30.8
	車輌運搬用トラクタ	セミトラクタ	2	0	0	0	2	33.3	1	0	0	0	1	25.0	2	0	0	0	2	40.0
		フルトラクタ	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0
	産業機械運搬車	車輌傾斜式	3	1	2	0	6	24.0	3	1	2	0	6	14.3	3	0	4	0	7	28.0
		荷台スライド式	5	6	1	0	12	34.3	9	3	0	0	12	48.0	10	1	1	0	12	27.9
		その他	1	2	0	0	3	75.0	3	0	0	0	3	33.3	0	0	0	0	0	0.0
	家畜運搬車		0	0	0	0	0	0.0	0	1	0	0	1	—	1	0	0	0	1	100.0
	側面開放車(幌製)	ハネ上げ式	0	4	0	0	4	9.1	0	14	0	0	14	26.4	0	15	1	0	16	18.0
		カーテン式	0	0	1	0	1	7.7	0	0	1	0	1	16.7	1	0	2	0	3	33.3
	コンテナ兼用車		2	0	0	0	2	200.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0
	脱着ボデー		0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0
	その他		1	0	3	0	4	20.0	1	1	10	1	13	41.9	1	2	14	1	18	54.5
合計			74	190	721	0	985	33.1	69	189	954	1	1,213	41.9	95	276	1,284	1	1,656	55.1
対前年同月比(%)			29.1	27.5	35.6	0.0	33.1		23.9	24.6	51.9	100.0	41.9		29.1	34.1	68.8	50.0	55.1	

乗用車および商用車車体　2009年４月～６月生産台数

（単位：台）

車種		4月 国内	4月 輸出	4月 計	4月 対前年同月比(%)	5月 国内	5月 輸出	5月 計	5月 対前年同月比(%)	6月 国内	6月 輸出	6月 計	6月 対前年同月比(%)
乗用車	セダン、ハッチバックタイプ	17,188	15,246	32,434	48.7	17,350	20,002	37,352	58.2	28,270	21,992	50,262	71.3
	ステーションワゴン	10,071	10,000	20,071	44.0	12,227	14,228	26,455	57.8	14,610	19,073	33,683	68.6
	ミニバンタイプ	5,250	347	5,597	95.6	6,125	294	6,419	70.5	9,331	317	9,648	88.9
	オフロードタイプ	1,964	14,388	16,352	51.2	2,238	15,091	17,329	58.3	2,343	15,585	17,928	53.0
	キャブオーバータイプ	10,843	218	11,061	59.9	12,718	142	12,860	57.5	19,423	148	19,571	69.9
商用車	ツーボックスバン	2,532	981	3,513	75.2	3,318	1,034	4,352	96.7	3,769	1,325	5,094	101.8
	キャブオーバーバン	6,126	2,039	8,165	61.0	6,522	2,360	8,882	62.7	7,889	2,895	10,784	75.7
	キャブオーバートラック	893	0	893	66.1	100	0	100	8.8	235	0	235	40.5
	ボンネットトラック(シングルキャブ)	0	80	80	5.5	0	125	125	2.7	0	233	233	7.5
	ボンネットトラック(ダブルキャブ)	0	1,055	1,055	20.7	0	1,218	1,218	55.3	0	1,131	1,131	12.2
合計		54,867	44,354	99,221	51.1	60,598	54,494	115,092	58.2	85,870	62,699	148,569	66.2

特装車車体　2009年４月～６月生産台数

（単位：台）

車種		4月 基準外	4月 大型	4月 中型	4月 小型	4月 軽	4月 国内計	4月 輸出	4月 合計	4月 対前年同月比(%)	5月 基準外	5月 大型	5月 中型	5月 小型	5月 軽	5月 国内計	5月 輸出	5月 合計	5月 対前年同月比(%)	6月 基準外	6月 大型	6月 中型	6月 小型	6月 軽	6月 国内計	6月 輸出	6月 合計	6月 対前年同月比(%)
ダンプ車	リヤダンプ	0	106	97	123	250	576	186	762	31.5	0	99	76	123	236	527	128	655	25.9	0	104	146	202	247	699	207	906	34.8
	三転ダンプ	0	0	3	6	0	9	0	9	39.1	0	0	1	9	6	16	0	16	43.2	0	0	1	17	6	18	0	18	36.0
	深積りダンプ	0	12	1	3	13	29	0	29	64.4	0	15	1	1	9	26	0	26	53.1	0	14	2	3	5	24	0	24	31.6
	その他	0	16	20	5	0	41	0	41	60.3	0	14	15	10	0	37	0	37	52.1	0	3	36	4	0	43	0	43	62.3
タンクローリ	石油類	0	5	22	2	0	29	0	29	49.2	0	17	28	1	0	46	8	54	74.0	2	10	36	8	1	57	0	57	61.3
	薬剤類	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	4	0	0	0	4	0	4	200.0	0	2	0	0	0	2	0	2	40.0
	飲水・給水	0	2	6	0	0	8	17	25	208.3	0	1	14	0	0	15	4	19	37.3	0	2	18	1	0	21	2	23	46.0
	食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	1	0	0	0	1	0	1	—	0	1	2	0	0	3	0	3	0.0
	その他	0	1	0	0	0	1	0	1	20.0	0	6	1	0	0	7	5	12	240.0	1	4	0	0	0	5	5	10	142.9
高圧ガスタンクローリ	LPG	0	1	2	0	0	3	0	3	42.9	0	0	4	0	0	4	0	4	25.0	0	0	6	1	0	7	0	7	43.8
	その他	0	3	0	0	0	3	0	3	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	1	0	0	0	1	0	1	100.0
トラックミキサ車	アジテータ	0	16	8	7	0	31	0	31	19.3	0	36	11	7	0	53	14	67	48.2	0	46	14	7	0	67	5	72	43.1
	ドライ	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
粉粒体運搬車	飼料	0	16	0	0	0	16	0	16	106.7	0	16	2	0	0	18	0	18	120.0	0	14	4	0	0	18	0	18	94.7
	バラセメント	0	10	0	0	0	10	0	10	34.5	0	10	0	0	0	10	0	10	50.0	0	16	0	0	0	16	0	16	33.0
	その他	0	1	0	0	0	1	0	1	25.0	0	1	0	0	0	1	0	1	20.0	0	3	0	0	0	3	0	3	75.0
消防車	消防ポンプ車	0	0	2	0	0	2	0	2	200.0	0	0	2	0	0	2	0	2	200.0	0	0	1	0	0	1	0	1	100.0
	梯子消防車	0	1	0	0	0	1	0	1	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	化学消防車	0	1	0	0	0	1	0	1	—	0	0	1	0	0	1	0	1	50.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	消防タンク車	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	消防指揮・指揮車	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
コンクリートポンプ車	ブームつき	0	2	3	2	0	7	0	7	38.9	0	4	4	0	0	8	0	8	42.1	0	2	5	0	0	7	0	7	31.8
	ブームなし	0	2	0	0	0	2	0	2	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
環境衛生車	じん芥車(機械式)	0	11	45	69	0	126	36	162	40.0	0	3	75	106	0	184	11	195	45.6	0	2	82	130	0	214	44	258	57.1
	じん芥ダンプ車(手積)	0	0	4	17	0	21	0	21	161.5	0	0	0	2	0	2	0	2	14.3	0	0	5	21	0	26	0	26	216.7
	衝生車	0	3	41	9	0	53	0	53	79.1	0	5	43	15	0	63	0	63	77.8	0	4	61	14	0	79	0	79	87.8
	脱水車	0	0	0	0	0	0	0	0	第2 84.0	0	0	0	0	0	0	0	0	第2 87.8	0	0	0	0	0	0	0	0	第2 68.3
	洗浄車	0	0	1	0	0	1	0	1		0	0	2	0	0	2	0	2		0	0	5	2	0	7	2	9	
	汚泥吸排車	0	3	2	0	0	5	4	9		0	2	1	1	0	4	17	21		0	0	4	0	0	4	3	7	
	強力吸引作業車	0	5	5	1	0	11	0	11		0	7	5	1	0	13	0	13		0	13	10	3	0	26	1	27	
	路面清掃車	0	0	1	2	0	3	0	3	60.0	0	0	3	2	0	5	0	5	71.4	0	4	7	1	0	12	0	12	171.4
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
高所作業車		0	0	3	70	0	73	1	74	36.3	0	0	1	65	0	66	0	66	32.8	0	1	8	34	0	43	0	43	20.2
脱着コンテナ車	ダンプ式	0	18	20	10	0	48	0	48	41.7	0	20	21	8	4	53	0	53	44.0	0	18	22	13	2	55	0	55	38.2
	機械式	0	0	6	0	0	6	0	6	150.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	1	1	0	2	0	2	20.0
その他	トラッククレーン	1	0	0	0	0	1	22	23	92.0	0	1	0	0	0	1	8	9	29.0	1	0	0	0	0	1	20	21	77.8
	空港用作業車	0	3	0	3	0	6	0	6	60.0	0	2	0	3	0	5	0	5	71.4	0	2	0	1	0	3	0	3	33.3
	道路作業車	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	除雪車	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	9	0	0	0	9	0	9	900.0	0	7	0	0	0	7	0	7	-
	穴掘建柱車	0	0	3	3	0	6	0	6	36.4	0	0	4	4	0	8	0	8	42.1	0	0	2	72	0	74	6	82	546.7
	レッカー車	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	その他	0	2	0	2	0	4	0	4	23.5	0	1	0	2	0	3	0	3	21.4	0	3	0	5	0	8	0	8	34.8
合計 ①		1	240	296	338	263	1,138	264	1,402	37.1	0	264	315	362	255	1,196	195	1,391	34.6	4	276	476	540	255	1,553	297	1,850	43.0
対前年同月比(%)		100.0	40.0	34.9	34.0	95.6	41.9	24.9	37.1		0.0	42.2	32.3	38.2	128.8	42.7	16.1	34.6		133.3	39.5	44.1	49.9	103.2	49.8	23.1	43.0	

＜装置＞

テールゲートリフタ	取付架装台数 ②	0	5	27	228	21	281	0	281	57.0	0	2	28	192	15	237	0	237	49.0	0	0	31	280	16	327	2	329	63.6
	装置のみの生産数	0	23	170	703	163	1,059	2	1,061	66.8	0	33	147	624	166	970	0	970	66.7	0	67	233	804	178	1,282	5	1,287	121.2
クレーン付トラック	取付架装台数 ③	0	21	85	74	0	180	34	214	33.0	0	30	57	63	0	150	29	179	28.9	0	36	91	89	0	216	22	238	31.3
	装置のみの生産数	0	0	7	22	0	29	4	33	5.8	0	1	16	86	0	103	2	105	18.2	0	1	31	77	0	109	0	109	18.7
脱着コンテナのみの生産数		0	39	392	93	3	527	0	527	62.6	0	31	353	73	4	466	0	466	61.4	0	62	468	84	7	631	0	631	72.0
特装車体 ＋ 装置 ①＋②＋③		1	266	408	640	284	1,599	298	1,897	38.5	0	296	400	617	270	1,583	224	1,807	35.3	4	312	690	909	271	2,096	321	2,417	41.3
対前年同月比(%)		20.0	39.5	35.0	42.2	96.3	43.7	23.6	38.5		0.0	42.4	30.7	40.7	125.6	42.4	16.1	35.3		66.7	39.7	40.3	56.8	95.8	50.0	23.2	43.3	

（※1）装置については、2008年度から別枠で集計しています。
（※2）環境衛生車・清掃車を2009年度から細分化しました。（清掃車 ― 脱水車、洗浄車、汚泥吸排車、強力吸引作業車）

特種車体 2009年4月～6月生産台数

(単位:台)

区分	用途	4月 大型 トラック	4月 大型 バス	4月 中型 トラック	4月 中型 バス	4月 ライト トラック	4月 ライト バス	4月 小型 トラック	4月 小型 バン	4月 乗用車	4月 軽	4月 国内計	4月 輸出	4月 合計	5月 大型 トラック	5月 大型 バス	5月 中型 トラック	5月 中型 バス	5月 ライト トラック	5月 ライト バス	5月 小型 トラック	5月 小型 バン	5月 乗用車	5月 軽	5月 国内計	5月 輸出	5月 合計	6月 大型 トラック	6月 大型 バス	6月 中型 トラック	6月 中型 バス	6月 ライト トラック	6月 ライト バス	6月 小型 トラック	6月 小型 バン	6月 乗用車	6月 軽	6月 国内計	6月 輸出	6月 合計
医療防疫用	胸部レントゲン車	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃及び胃胸部レントゲン車	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	子宮がん検診車	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳房検診車	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	検診車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	歯科検診車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	採血車	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	動物医療防疫車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護用	患者輸送車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	2
	車いす移動車	0	2	0	0	0	10	0	43	217	0	272	0	272	0	0	0	2	0	35	0	0	213	0	250	0	250	0	0	0	0	1	7	0	40	342	0	390	0	390
	入浴車	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	33	0	33	0	0	0	0	0	0	0	33	0	3	36	0	36	0	0	0	0	0	0	0	33	0	3	36	0	36
	寝具乾燥車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	6
緊急用	救急車	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	16	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	35	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3	11	14
	高規格救急車	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	ドクターズカー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液輸送車	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	救助工作車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	警察車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	44	0	62	0	62
	警察パトロールカー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	3	10
	護送車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
	消防指揮車	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	標識車	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
公務用	図書館車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	移動通信車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	トイレット車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	野犬捕獲車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
作業工作用	ガス作業車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	4	0	4
	水道作業車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	下水作業車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2
	道路維持作業車	0	0	0	0	1	0	0	0	9	0	10	0	10	0	0	0	0	2	0	0	6	7	0	15	0	15	0	0	1	0	0	0	0	1	8	0	10	0	10
	通信作業車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	林野作業車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水防作業車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機械工作車	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	架線工事車	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2
	電源車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	照明車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	3	0	3
検査測定用	測定車	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	2	0	0	1	0	0	0	3	1	3	0	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	29	1	0	30	0	30
	検査車	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
	試験車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	観測車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	保存車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
放送通信用	衛星中継車	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	7	0	9	0	9
	テレビ中継車	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	4	0	4
	通信中継車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラジオ中継車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	取材車	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広告宣伝販売用	移動販売車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	2
	食堂車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	広報宣伝車	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3	0	3
	商品展示車	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	移動広告車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サービス用	移動銀行車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	現金輸送車	0	0	0	0	0	0	2	22	0	0	24	0	24	0	0	0	0	0	0	5	29	0	0	34	0	34	0	0	0	0	0	0	12	30	0	0	42	0	42
	霊柩車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	2
	教習車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	32	0	32
	ハウスクリーニング車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	活魚運搬車	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	事務室車	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	競走馬運搬車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	タクシーキャブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人員輸送車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	59	61
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移住用	キャンピング車(自走用)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	移動ハウス車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		12	3	2	1	2	16	3	109	236	0	396	26	412	4	1	4	2	4	38	10	90	229	6	379	37	416	1	1	8	4	1	11	11	196	123	3	639	73	712

バン型車体 2009年度4月～6月生産台数

(単位:台)

月	用途		スチール製 大型	スチール製 中型	スチール製 小型	スチール製 軽	スチール製 小計	アルミ製 大型	アルミ製 中型	アルミ製 小型	アルミ製 軽	アルミ製 小計	FRP製 大型	FRP製 中型	FRP製 小型	FRP製 軽	FRP製 小計	合計 大型	合計 中型	合計 小型	合計 軽	合計 合計	対前年同月比(%)
4月	ドライバン		0	0	1	0	1	67	110	626	13	816	0	0	0	0	0	67	110	627	13	817	55.4
	冷凍車	機械式	0	1	64	5	70	57	234	255	29	575	16	164	193	10	383	73	399	512	44	1,028	80.1
	冷凍車	蓄冷式	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	11	0	0	12	0	12	60.0
	冷凍車	小計	0	1	65	5	71	57	234	255	29	575	16	164	204	10	394	73	399	524	44	1,040	79.8
	保冷車		0	0	7	1	8	3	1	89	11	104	3	3	15	0	21	6	4	111	12	133	57.1
	オープンバン		0	0	0	0	0	0	3	12	0	15	0	0	0	2	2	0	3	12	2	17	53.1
	ウイング	ドライ	0	0	0	0	0	144	123	39	0	306						144	123	39	0	306	18.7
	ウイング	冷凍(機械式)	0	0	0	0	0	34	24	0	0	58						34	24	0	0	58	53.7
	ウイング	小計	0	0	0	0	0	178	147	39	0	364						178	147	39	0	364	20.8
	ウォークスルーバン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	ボトル運搬車		0	0	1	0	1	0	56	108	0	164	0	0	0	0	0	0	56	109	0	165	42.0
	その他		0	0	0	0	0	1	5	1	0	7	0	0	0	0	0	1	5	1	0	7	350.0
	合計		0	1	74	6	81	306	556	1,130	53	2,045	19	167	219	12	417	325	724	1,423	71	2,543	49.1
	対前年同月比(%)		0.0	−	102.8	150.0	106.6	30.3	38.1	55.6	85.5	44.8	126.7	69.0	81.7	75.0	77.1	31.7	42.5	60.0	86.6	49.1	
5月	ドライバン		0	0	0	0	0	59	93	493	12	657	0	0	0	0	0	59	93	493	12	657	49.6
	冷凍車	機械式	0	0	88	4	92	67	236	231	12	546	10	189	178	42	419	77	425	497	58	1,057	80.4
	冷凍車	蓄冷式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	9	0	0	9	0	9	112.5
	冷凍車	小計	0	0	88	4	92	67	236	231	12	546	10	189	187	42	428	77	425	506	58	1,066	80.6
	保冷車		0	0	8	0	8	1	3	117	13	134	2	2	29	2	35	3	5	154	15	177	95.7
	オープンバン		0	0	1	0	1	0	0	13	0	13	0	0	0	0	0	0	0	14	0	14	35.9
	ウイング	ドライ	1	1	0	0	2	128	106	37	0	271						129	107	37	0	273	16.9
	ウイング	冷凍(機械式)	0	0	0	0	0	49	18	0	0	67						49	18	0	0	67	82.7
	ウイング	小計	1	1	0	0	2	177	124	37	0	338						178	125	37	0	340	20.1
	ウォークスルーバン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	ボトル運搬車		0	0	0	0	0	0	41	56	0	97	0	0	0	0	0	0	41	56	0	97	29.3
	その他		0	0	0	0	0	2	4	4	0	10	0	0	0	0	0	2	4	4	0	10	200.0
	合計		1	1	97	4	103	306	501	951	37	1,795	12	191	216	44	463	319	693	1,264	85	2,361	48.2
	対前年同月比(%)		−	−	134.7	80.0	133.8	30.0	33.5	55.5	50.0	41.7	109.1	84.5	83.1	183.3	88.9	30.9	40.3	61.8	82.5	48.2	
6月	ドライバン		0	1	0	3	4	56	126	603	9	794	0	0	0	0	0	56	127	603	12	798	53.1
	冷凍車	機械式	0	0	87	4	91	133	342	300	48	823	11	211	180	15	417	144	553	567	67	1,331	75.7
	冷凍車	蓄冷式	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	0	10	0	1	9	0	10	250.0
	冷凍車	小計	0	0	87	4	91	133	342	300	48	823	11	212	189	15	427	144	554	576	67	1,341	76.1
	保冷車		0	0	4	2	6	7	6	134	28	175	0	7	28	3	38	7	13	166	33	219	87.6
	オープンバン		0	0	0	0	0	2	2	11	0	15	0	0	0	0	0	2	2	11	0	15	35.7
	ウイング	ドライ	0	0	0	0	0	207	165	42	0	414						207	165	42	0	414	22.1
	ウイング	冷凍(機械式)	0	0	0	0	0	59	23	1	0	83						59	23	1	0	83	62.9
	ウイング	小計	0	0	0	0	0	266	188	43	0	497						266	188	43	0	497	24.8
	ウォークスルーバン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	ボトル運搬車		0	0	0	0	0	0	34	63	0	97	0	0	0	0	0	0	34	63	0	97	42.4
	その他		0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	150.0
	合計		0	1	91	9	101	464	699	1,156	85	2,404	11	219	217	18	465	475	919	1,464	112	2,970	51.2
	対前年同月比(%)		0.0	−	97.8	100.0	98.1	34.3	38.1	64.3	96.6	47.4	47.8	82.3	69.3	94.7	74.9	34.5	43.7	66.4	96.6	51.2	

DATA　BOX

バス車体　2009年４月～６月生産台数

（単位：台）

用途		4月 大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	コミューター	合計	対前年同月比(%)	5月 大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	コミューター	合計	対前年同月比(%)	6月 大型	中型	小型Ⅰ	小型Ⅱ	コミューター	合計	対前年同月比(%)
標準	路線	74	3	0	7	0	84	52.8	48	33	0	3	0	84	43.8	150	22	0	15	0	187	85.4
	観光	3	3	0	4	0	10	142.9	6	1	0	8	0	15	107.1	4	3	0	9	0	16	84.2
	自家用	10	10	0	225	2,785	3,030	57.3	7	12	0	186	2,631	2,836	59.4	7	25	0	293	2,838	3,163	55.7
	幼児			0	22	6	28	96.6			0	6	4	10	50.0			0	21	4	25	71.4
ハイデッカ	路線	26	0				26	49.1	20	0				20	64.5	40	0				40	57.1
	観光	59	0				59	55.7	44	0				44	43.1	51	0				51	67.1
	自家用	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0
スーパーハイデッカ	路線	2	0				2	200.0	1	0				1	14.3	2	0				2	66.7
	観光	5	0				5	15.6	7	0				7	36.8	4	0				4	14.8
	自家用	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0
ダブルデッカ	路線	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0
	観光	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0	3	0				3	-
	自家用	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0	0	0				0	0.0
国内向計		179	16	0	236	2,785	3,216	56.9	133	46	0	197	2,631	3,007	58.5	261	50	0	317	2,838	3,466	56.9
輸出向		0	0	0	417	1,322	1,739	30.5	0	0	0	576	1,948	2,524	42.7	0	0	0	910	2,386	3,296	49.6
合計		179	16	0	653	4,107	4,955	43.7	133	46	0	773	4,579	5,531	50.0	261	50	0	1,227	5,224	6,762	53.1
対前年同月比(%)		57.4	21.6	0.0	28.4	47.5	43.7		41.8	70.8	0.0	32.6	55.1	50.0		69.0	80.6	0.0	43.9	54.9	53.1	

※ 2009年度から呼称変更　マイクロバス ⇒ コミューター

トレーラ　2009年４月～６月生産台数

（単位：台）

区分	形状別	種類別	低床 低床	中低床	平床（場り付を含む） 1軸	2軸	3軸	段付 1軸	2軸	3軸	バン ドライ	冷凍	側面開放	コンテナ用 20'	40'	その他	タンク 石油類	粉粒体 セメント	飼料	高圧ガス	ミ・ルク・食品	その他	ダンプトレーラ	ポール	車載用 セミトレーラ	フルトレーラ	フルトレーラ	その他	合計	対前同月比(%)
4月	国内向	基準内	0	0	0	32	8	0	0	0	7	2	62	6	7	3	3	0	1	4	0	1	4	0	4	0	4	0	148	36.1
		基準外	3	7	0	0	11	0	1	6	0	0	0	9	21	2	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	0	0	67	18.1
	輸出向		0		0						0			0			0						0	0	0		0	0	0	0.0
	構内用		1		0						0			0			0						0	0	0		0	0	1	100.0
	合計		11		58						71			48			14						6	0	4		4	0	216	27.1
	対前年同月比(%)		110.0		33.5						161.4			9.3			116.7						54.5	0.0	14.3		80.0	0.0	27.1	
5月	国内向	基準内	0	0	0	1	8	0	1	0	7	2	14	2	39	1	3	4	3	0	0	4	5	0	5	0	5	0	104	36.6
		基準外	1	0	0	2	11	0	0	1	0	0	0	6	8	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	34	8.1
	輸出向		0		0						0			0			0						0	0	0		0	0	0	0.0
	構内用		0		0						0			0			0						0	0	0		0	0	0	0.0
	合計		1		24						23			58			16						6	0	5		5	0	138	19.5
	対前年同月比(%)		5.3		18.6						39.7			13.1			76.2						75.0	0.0	20.8		83.3	0.0	19.5	
6月	国内向	基準内	1	0	0	37	12	0	0	0	5	1	26	6	15	5	3	3	5	0	0	2	2	0	5	0	10	0	138	31.6
		基準外	2	9	0	1	5	0	0	1	0	0	14	12	29	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	15.8
	輸出向		0		0						0			0			0						0	0	0		0	0	0	0.0
	構内用		0		0						0			0			0						0	0	0		0	0	0	0.0
	合計		12		56						46			67			15						2	0	5		10	0	213	23.0
	対前年同月比(%)		400.0		36.8						50.5			10.8			71.4						40.0	0.0	18.5		166.7	0.0	23.0	

編集後記

歴史的な政権交代となり、いろいろな変化が期待されています。公約によれば自動車関係諸税の暫定税率や二重課税を即刻廃止するという。高速道路も無料化も含め中長期の成長戦略より当座のバラマキ優先に不安が残りますが、自動車諸税簡素化というわれわれの長年の要求が達成されることは喜ばしいことです。これ以外にも長年の悪しき慣習から脱皮し、新しい仕組み作りを進めてもらいたいもので、当面は新政権の一挙手一投足に目が離せない日が続きそうです。

今号の特集に先般開催した環境発表会での対応事例を掲載しました。

環境負荷物質フリー化を達成した会員の話では「取引先に理解、協力いただく」ことが最大のご苦労とのことで、トップランナー会員のご努力に感謝しています。対応事例の共有化を進め、早く全会員で環境負荷物質フリー化を達成させ、このような話が昔話となるようにしたいものです。それまではこの特集を続けたいが、あと２年間が必要か…。

（橋本）

2009年度　秋季会員大会のご案内

○日時　2009年10月23日（金）11：00～13：00
○場所　千葉県千葉市美浜区ひび野２－３
　　アパホテル＆リゾート東京ベイ幕張
　　（旧：幕張プリンスホテル、幕張メッセ会場隣）
○会場：東京ベイ幕張ホール　　TEL　043-296-1111
○当日のスケジュール
　　10：30～　　受付・入場開始
　　11：00～12：00　講演会
　　12：05～12：15　会長挨拶
　　12：15～13：00　懇親会
　　閉会・自由解散後第41回東京モーターショー見学
○講演会内容
　テーマ:「大型トラック・バスの市場動向と架装メーカに望むこと（仮）」
　講　師: 日産ディーゼル工業㈱　殿
○参加費用　無料
○申込み　会員宛送付済みの申込用紙にて
　　9月28日（月）までにお送りください。

■表紙写真について

路面清掃車「ＨＡ 90 Ｈ
（9t積・４輪真空還流式）」

豊和工業㈱ 製

吸入空気の一部を再利用する真空還流式の採用により、ブラシ等の消耗品が少なく経済的、しかも塵埃分離装置を設けたことで細かい塵埃を内部で処理し、排出空気がクリーンである。

車両下面のブラシ後方にある吹付ノズルを設けた２層構造のサクションフード採用により、効率と仕上がりの良い路面清掃作業が行える。

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の４回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。

送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査（独）検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会および自動車関係団体となっております。

広告ご掲載会社

住友スリーエム株式会社 ・・・・・・・・・・・・・ 表２
日本トレクス株式会社 ・・・・・・・・・・・・・・・ 33
株式会社損保ジャパン ・・・・・・・・・・・・・・ 表３
交通エコロジー・モビリティ財団 ・・・・・・・ 表４

車体NEWS　秋号　2009

2009年９月15日発行
発行所　社団法人　日本自動車車体工業会
〒105-0012　東京都港区芝大門1-1-30
TEL 03-3578-1681
FAX 03-3578-1684
発行人　橋本　茂
制　作　NICS